

ORIGAMI

# 折紙探偵団 MAGAZINE

TANTEIDAN

クローズアップ Close-up

## ジョワゼル追悼、偲ぶ想いを世界から

Obituary: Eric Joisel Memories from the Whole World

定価635円  
(本体605円)



折り図 Diagrams

猫

Cat

勝田恭平

Katsuta Kyohei

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

カンムリヅル

Crowned Crane

山本大雅

Yamamoto Taiga

つまみおり Information

第17回折紙探偵団コンベンション折り図集

折り図募集開始

The 17th Origami Tanteidan Convention Book: Call for Diagrams

通巻 124 号

# 日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

## 第一章 名称と目的

### 第一条 会の名称

1. 本会の名前は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名前は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

### 第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書籍研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規則第4章より抜粋

## Chapter 1: Name and Purpose

### Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakka in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

### Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

## ●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



Cat

作: 藤田恭平 (P.22)

by Katsuta Kyohei (P.22)

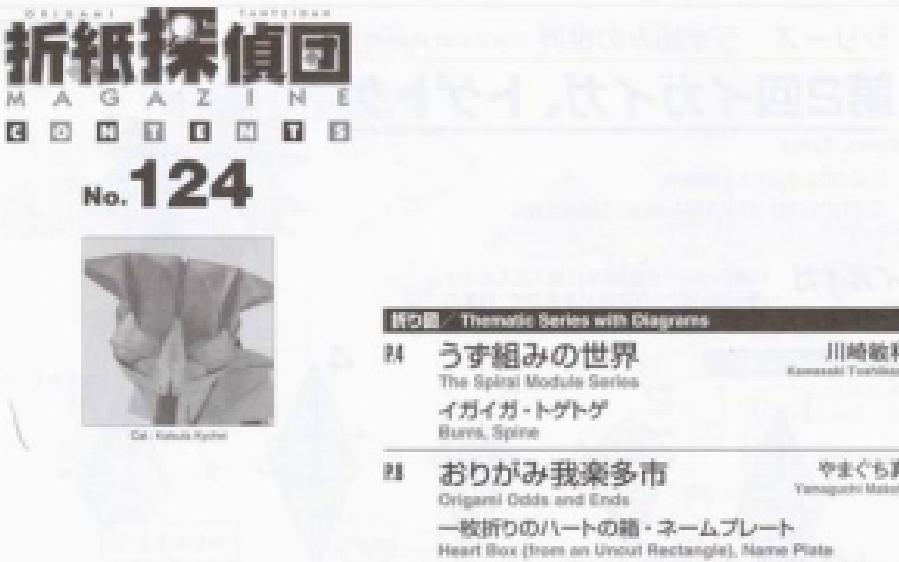
■猫のかわいらしさは、「優らかな蝶屋」のような頭部に動かすところも大きいでしょう。しかし蝶といふ意味にとっては四手分割、どのように立ち向かうのが圖の見せどころです。本作では表情デザインに伴う紙の量なうが、画面表覧のために同時に効率を充満、また逆に画面表現によって、各部品の輪郭線ひとつひとつが存在意義が際立っています。

(解説=北畠義史) Comments : Heiji Nakata

No. 124



Cat: Kubota Ryotaro



クローズアップ / Close-up

III ジョワゼル追悼  
偲ぶ想いを世界から

Obituary: Eric Joisel  
Memories from the Whole World

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

II 猫

Cat

勝田恭平  
Katsuta Kyohei



II 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

カンムリヅル

Crowned Crane

山本大雅

Yamamoto Taiga

カラーページ / Color

II オリガミ・フォトギャラリー  
Origami Photo Gallery

解説・北澤高史  
Comments - Hajiro Nakazawa

折り図 Thematic Series with Diagrams

II うず組みの世界

The Spiral Module Series

イガイガ - トゲトゲ

Barns, Spines

川崎敬和

Kawasaki Toshihiko

II おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

一枚折りのハートの箱・ネームプレート  
Heart Box (from an Unout Rectangle), Name Plate

寺内ぐら真

Taniguchi Masaaki

記事特集 Articles:

II 「千羽鶴折形」再訪

"Senbazuru Origami" Revisited

誤写、誤校訂いろいろ

Misreproductions and Hypercorrections

岡村昌夫

Okamura Masao

II 気軽にはじめる 22.5 度系創作法

Creating Models Based on 22.5° for Novices

円周一樹状圖—基本形

Circle Packing, Trees, and Bases

小松義夫

Komatsu Naoto

II ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

ジェイソン・クー

Jason Ku

コラム Columns

II 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fumi Tomita

II おりすじ

Origrizu ("Fold-Crosses")

西 誠志

Kazumi Nishi

II 折紙三昧

Origami-Zannai (This Origami and That)

西川誠司

Mitsuhiko Nishi

情報 Information

II つまみおり

Rabbit Ear

第17回折紙探偵団コンベンション折り図集

折り図募集開始

The 17th Origami Tenteiden Convention Book:

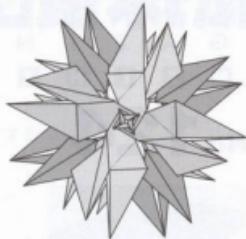
Call for Diagrams

## 第2回イガイガ、トゲトゲ

Burrs, Spine

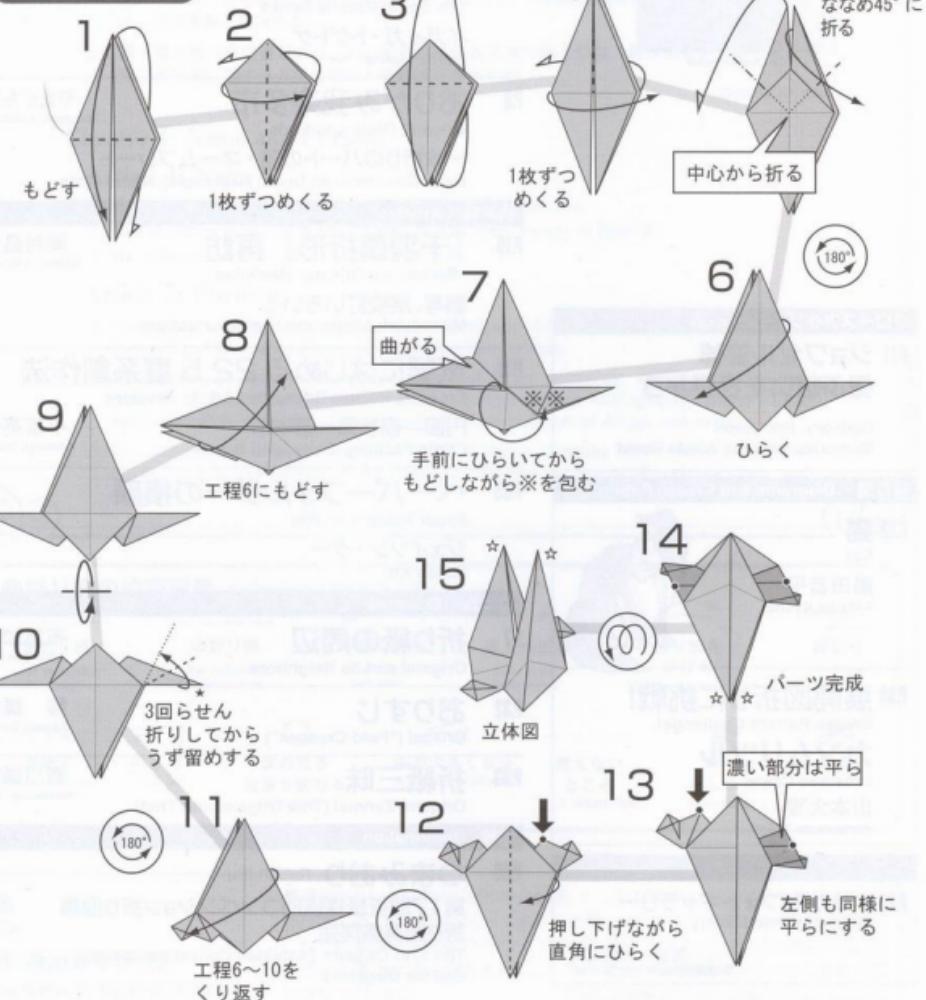
©2009-2010 川崎敏和

©2009-2010 KAWASAKI Toshikazu

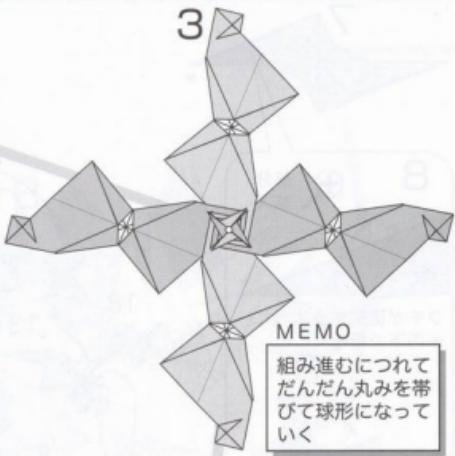
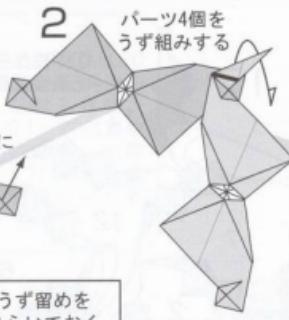


**イガイガ** 12個のパーツを正八面体に組んだものです。  
**Burrs** パーツには2つの突起があるので、24本の突起ができます。

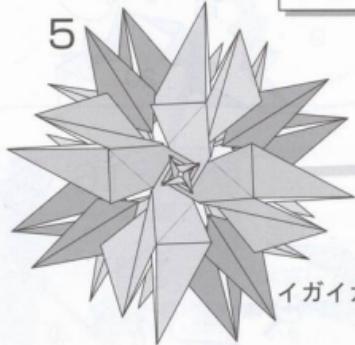
パーツを12個折る



パーティを12個組む  
パーティ12個を組んで  
正8面体にします。

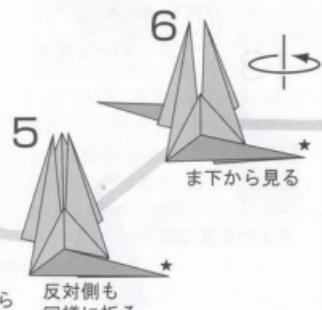
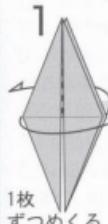


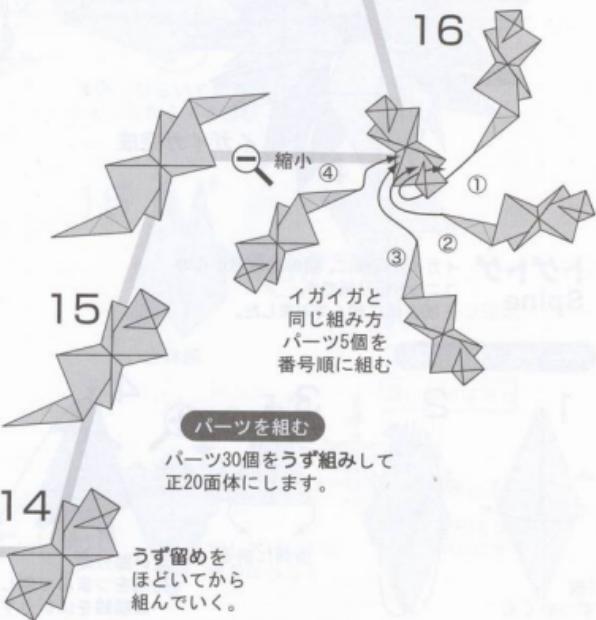
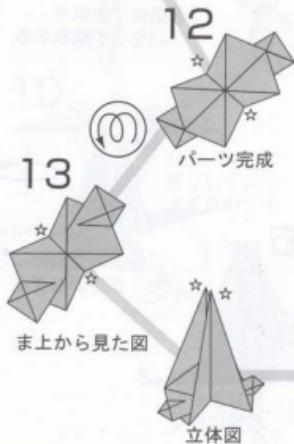
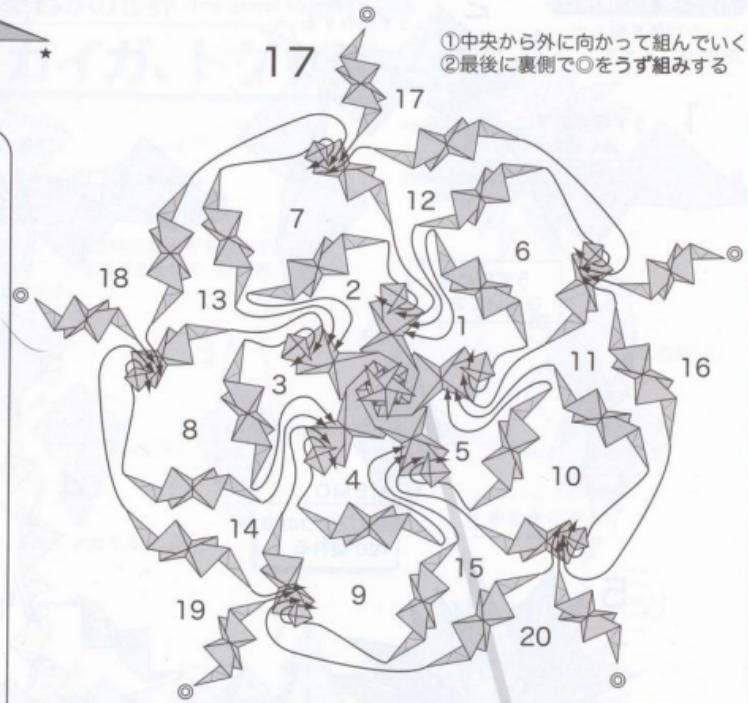
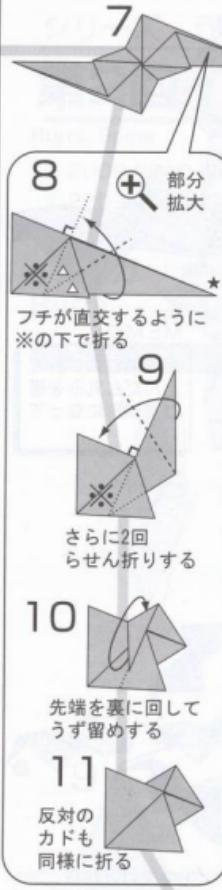
MEMO  
組むと2つの突起が離れる



トゲトゲ  
Spine イガイガ同様に、鶴の基本形からの  
ユニット折り紙です。  
正20面体に組んでみました。

パーティを30個折る





パートを組む

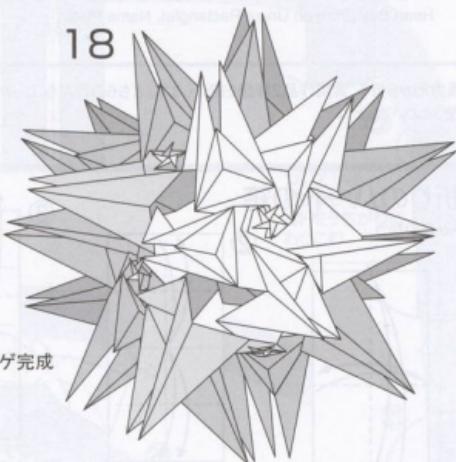
バーツ30個をうず組みして正20面体にします。

うず留めを  
ほどいてから  
組んでいく。



正20面体は20個の正3角形からなる立体。11~20は裏側にある。工程17の数字は左図の番号を表す。

18



トゲトゲ完成

# 折り紙の 周辺

第44回  
クマ鈴  
Bear-Protection Bells

Origami and  
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

めずらしく忙しい日々を送っている。折り紙関係とそうでない用が重なり重なって、身も時間もコマ切れ。ストレスがたまる。そして思っている「折り紙がしたい」。それはつまり、折り紙のアイデアを考え試す、静かで集中できる時間が欲しいと体と心が伝えている。忙しいのは良くない。私には向こうの山に目をやったり、庭の草を抜いたりする時間が必要だ。恒例の干し柿作りもタロ氏

とネコの米にまかせ、ミョウガが豊作だったのに、去年喜んでもらった人に送れなかった。

行動を整理しなくては、と思っている。というのも、あれよと言う間に日々が過ぎ、来年はあらら年女。數十年ぶりの同窓会ですでに1割の友が彼岸へ逝ったと知った。もうそんな年齢になっている。

世界各国で折り紙展が開かれる頻度が増してきたように思われる。

アメリカでは新しい折り紙雑誌が刊行されるという。連絡をうけ依頼され、力になりたいが、応えきれない。ごめんねごめんねの日々。ひとりでやる作業量には限界がある。

若い折り紙者にはチャンスがたくさんある。アンテナを伸ばし自ら行動を起こしてチャンスをつかんで欲しい。

今年はクマの出没が多い。防災無線と有線放送で、連日目撃情報を伝えている。散歩には必ずクマ鈴。日課の散歩も滞りがちな10月だったが、それでも散歩の足を伸ばしてキノコ狩りだけはした。大収穫。コウタケ、ハツタケ、ホウキタケ、シメジ類。クマの危険と高齢化のせいで、山に入る人が少なかったようだ。クマ鈴をならして散歩して、さあ11月はのんきに暮らすぞ。といいつつも、来年1月7日からオーストリアのボーデン湖ほど近い小さな村Hittisauの家具工房で太郎氏と2人展をやることになっており、当面その準備に追われそうです。

## 第45回 一枚折りのハートの箱・ネームプレート

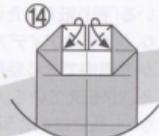
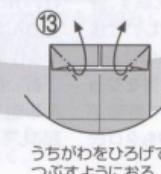
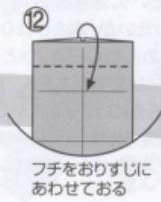
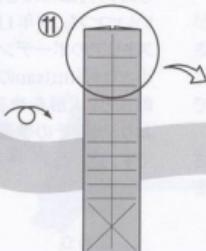
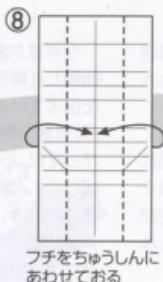
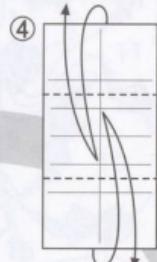
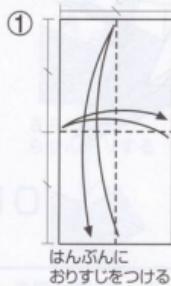
Heart Box (from an Uncut Rectangle), Name Plate

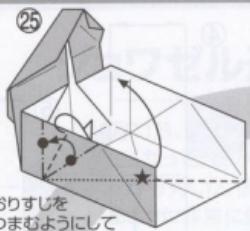
1:2の長方形から折る、実用作品2種類を紹介します。どちらの作品も、しっかりした紙を使うよいでしょう。



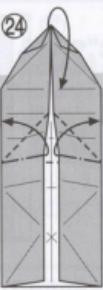
## 一枚折りのハートの箱

1:2のかみをつかう

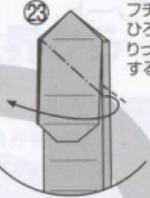




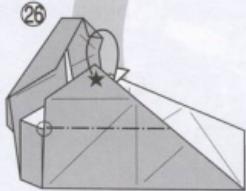
おりすじを  
つまむようにして  
ななめにだんおりしながら  
ついているおりすじで  
カドをおこす



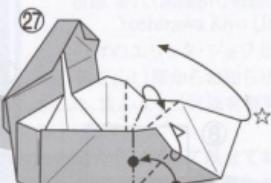
ついている  
おりすじで  
フチをひろげて  
りったいにする



フチを  
ひろげながら  
りったいに  
する



カドを○のところから  
うしろへおりこむ



はんたいがわもると  
おなじようにおりながら  
ついているおりすじで  
カドをおこす



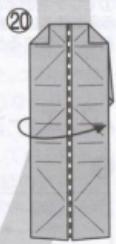
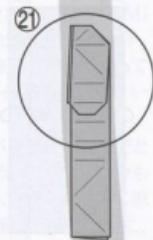
できあがり



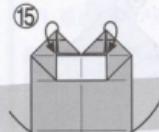
ついているおりすじで  
フタをかぶせるようにおる



○のところから  
カドをうちがわへ  
おりこむ



はんぶんにある



カドをフチに  
あわせておる



ついている  
おりすじである



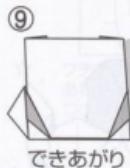
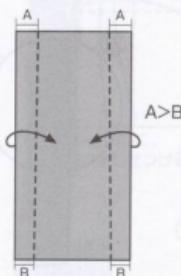
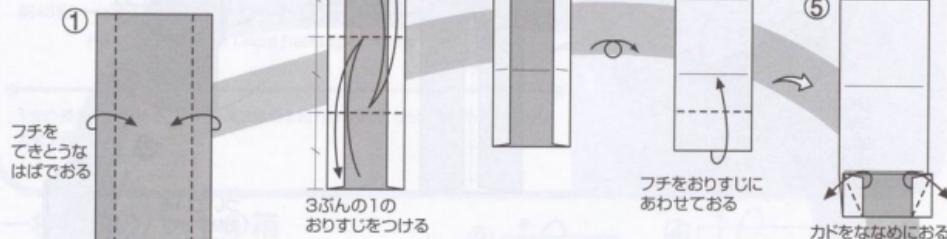
フチを  
おりすじにあわせて  
おりすじをつける



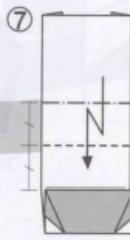
カドを  
おりすじにあわせて  
さんかくにある

# ネームプレート

はんぶんにきっと  
かみをつかう

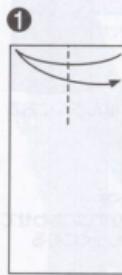


フチをすきまにさここんで  
りたいにする

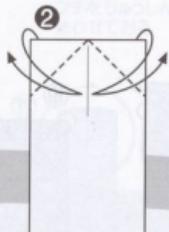


⑥でさこみにくいはあいは  
①でフチをおるとときに  
うえをすごしあおきく  
おるようにするとい

## バリエーション



はんぶんにかかる  
おりすじをつける



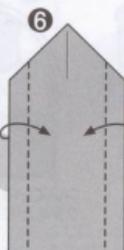
フチをおりすじにあわせて  
おりすじをつける



力道をおりすじに  
あわせておる



カドをうしろへ  
おる



[ネーム  
プレート]の  
①～⑨と  
おなじように  
おる



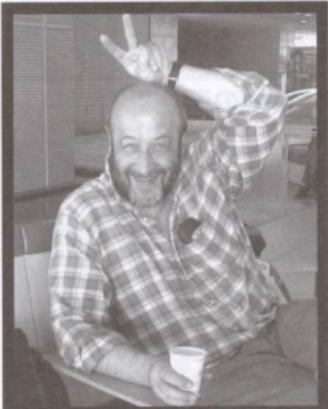
ついている  
おりすじである

# ジョワゼル追悼、偲ぶ想いを世界から

Obituary: Eric Joisel    Memories from the Whole World

10月11日、フランスの折り紙作家、エリック・ジョワゼル氏が肺癌のため亡くなつた。彼の葬儀には、ヨーロッパ圏内ののみならず、世界各国の人々が参列した。彼のキャラクターは、その折り紙作品にもにじみ出でているように非常に魅力的だった。ここに寄せられた追悼文からも、彼の人柄が偲ばれる。

翻訳：立石清一・羽鳥公士郎  
Translator: Tateishi Kōichi, Hatori Kōshirō



もうこんな姿にお目にかかれないのでエリック。皆さんは寂しいと言っているよ。

Photo by Yamaguchi

## 地球上の何所かに おられるような

吉澤 喜代 (国際折り紙研究会)  
Yoshizawa Kiyoko (Japan)

この度のエリック・ジョワゼル様の訃報を山口様からお知らせ頂きました。衷心よりご冥福を御祈り申し上げます。

何時から、どうして臥せておられ



たかも知らずに過しました。

4月半ばの頃、会員の持つてゐる教室の生徒さん(吉澤章の又

弟子)が、先生に関係のある方ではないかと、週刊新潮を持ってこられました。グラビア3ページの写真とコメントは、大きい作品「サイ」を自分で抱いて運んでいたところでした。また作品になる前の試行錯誤をしている様様な形体に埋もれて、顔を出しておられました。得意そうでもありながら、少し淋しそうにも感じました。吉澤章に触発されて、ORIGAMIを始められたとお聞きしています。吉澤章とは折り線構成が全く違っていますが、良い作品を作られていました。

東京で、勿論パリで、アメリカでいつも一見お元気そうでした。今も地球上の何所かにおられるように思います。折り紙を愛する皆様と共に、亡き人を偲びたいと思います。

## 思いやりがあつて 思慮深い友人

イブ・クラベル

Yves Clavel (France)

この2年間、エリック・ジョワゼルは自身の命のために闘っていました。9月、彼は最期が近いことを知りながら、思いやりがあつて思慮深い、すばらしい友人であり続け、決して不平をもらしませんでした。友人である山

口真さんが近々出版する彼の本を見たときが、最後の喜ばしい瞬間となつてしましました。インターネットで「昨夜エリックが亡くなりました」と案内をしたときは、まるで大地が崩れたように感じられました。世界中から、悲しみの声が洪水のように押し寄せました。エリックが折り紙を教えたり、折り紙の道を示したりしたときの、寛大で謙遜した様子は、誰も忘れることができないでしょう。彼は、私たちに折ることへの欲求を与えてくれたばかりでなく、自分のできる限りのことを他人に与えることへの欲求も与えてくれました。

折り紙はエリック・ジョワゼルの情熱でした。フランスでこの芸術を発展させるには、鉄の意志と根気強さが必要

で、彼の並外れた才能は主に国外で認められてきました。エリックは、曲線折りや彫刻のような折りによる「本当の立体作品」と、作品のそれぞれを独自のものにしている即興的な折りによって、折り紙の技術を完全に変革しました。革命を起こしたことってもいいでしょう。

エリックは、作品は自分の子供だと書いています。彼は、「道化師」や「バーバリアン」、小人や音楽家といった作品を通じて、生き続けるでしょう。

エリック・ジョワゼルは今や、深く尊敬していた吉澤章先生のそばにいます。2人がともに折り続け、作品を生み出し続けることを願っています。





お墓の上の祭壇。Photo by Yamaguchi



参列者によって、献花の代わり(?)にお墓の中に折り鶴が入れられた。Photo by Yamaguchi



参列のために国外からも折り紙関係者が来ていた。Photo by Yamaguchi

## 腹を割って話せる友人

私は、1996年にフランスのトロワで開かれたMFPPコンベンションに招待されたとき、エリック・ジョワゼルに初めて会いました。カタツムリ、カメ、二ワトリ、ハリネズミといった独特な動物たちに、すぐに感銘を受けました。エリック・ジョワゼルは、技術的にも芸術的にも実力のある、折り紙の才能の持ち主であることは明らかでした。

エリックがイギリスの折り紙界に初めて登場したのは、1997年にヨークで開かれた30回記念BOSコンベンションでした。参加者は、新作のセンサンコウに驚かされました。曲線的な形、折られた鱗によって形作られた空洞の胴体、鱗は尾では小さく、胴体の中央に向かって大きくなり、頭に向けてまた小さくなります。エリックが、一緒にフランスからやってきた何人かの折り紙友達とともに、ヨークの群衆に囲ま



弔辞を読むブリルさん。左はエリックのお兄さん。Photo by Yamaguchi

デイブ・ブリル  
David Brill (United Kingdom)

れて大笑いしていたのを楽しく思い出します。エリックはあらゆる意味で有名人になりました。すぐに新しい友人ができ、世界中から来た参加者がファンになりました。

私は2003年、画家の友人2人（どちらもデイブという名前です）とともにフランスを旅し、モネやゴッホ、セザンヌといった印象派の故郷や風景を見て歩くことにしました。エリックが近くに住んでいることを知っていたので、泊まる場所でおすすめはないかと電話で尋ねました。すると彼は「私は何年も休暇を取っていないので、3人で我が家に泊まれば、あちこち室内するよ。楽しくなるね」と言ったのです。エリックのもてなしは完璧でした。私たちは、ドーヴィル、トルヴィル、ジヴェルニー、そしてパリにあるロダン美術館で、楽しい日々を過ごしました。エリックはロダンがとても好きでした。

2004年、日本折紙学会の第10回記念コンベンションのあとで日光に旅行したとき、彼はツアーガイドの女性から帽子と旗を奪い、先頭に立って歩きはじめました。一行からは笑いが絶えませんでした。彼がトレードマークのからかい言葉「私はあなたが大嫌いです」を口にしたときは、その人を友人として迎え入れたことを意味していました。

エリック・ジョワゼルは、紳士であり、芸術家であり、完璧主義者であり、コメディアンでした。腹を割って話せる私の友人でした。彼と会えなくなつて寂しく思います。

## 熟練の手さばき

ジョナサン・バクスター

Jonathan Baxter (New Zealand)

そこは、信じられないようなマスク制作器の地でした。この小さな折り紙折りが行くところにはどこでも、お気に入りの折り紙用具が束になつて、彼に使ってもらうを待つていました。何の話かさっぱり分からぬといふ方のために説明すると、これは単なる箸のことです。エリックに会ったときはほとんどいつでも、シャツのポケットから箸が覗いていました。あの有名なマスクを作るとき、彼は1本の箸を熟練の手さばきで使い、折り目を際立たせたり、細かく装飾したりしていました。パリではきっと、ボーイ長からきれいな箸を一膳手に入れるのは一苦労だったでしょうが、日本では箸がどこにでもあるのです。

パリの郊外からやってきた偉大でちっぽけな折り紙折りが、こんなことを言って笑わせてくれたことを思い出すにつけ、寂しくなります。「山口さんのもてなしはすばらしい。私たちが行くところにはどこでも先回りして準備している。1人のち



ぽけな折り紙折りのために、こんなにたくさんマスク制作器を用意してくれるなん

## 「さよなら」とは言いません

ジューン・サカモト  
June Sakamoto (USA)

私が初めてエリック・ジョワゼルに会ったのは、2000年にイギリスのヨークで開かれた第30回BOSコンベンションに参加したときでした。展示エリアにあった彼のハリネズミに感嘆していたとき、彼が立て私を見ているのに気がつきました。その人が創作者であることを確認してから、この作品はどうでもすばらしいと話しました。すると彼は、「私のハリネズミを気に入ったのですか。それなら、1つ持っていないければいけませんね」と言って、1つを私の手のひらに乗せたのです。私は固辞しましたが、彼はそれを持ってゆくようにと言い張りました。私は震える手でこの宝物を持って立ち去りました。私がたった今会った人は、眞の達人であり、きわめて寛大な人だと知りました。

エリックはその後も、私に対して非常に寛大であり続けました。そのため、彼が経済的な問題で苦しんでいると聞いたとき、何かしら援助をしなければならない



と思いました。私は山口さんの提案を受け入れて、彼の折り紙作品を購入することにしました。その作品は今、ギャラリーおりがみはうすに展示されています。エリックの作品は、山口さんの管理のもと、コレクションとして最も良い状態で残ってゆくことでしょう。

友人がいなくなるというのは寂しいことですが、彼への最後のメッセージで、私は「さよなら」とは言いません、と告げました。いつかどこかでまた会えるのですから。エリック、また会う日まで……。

## 大きな心の

### 折り紙の巨人

ロバート・J・ラング

Robert J. Lang(USA)

前からいわく付きの「フランスの折り紙馬鹿」と聞いていたのですが、エリックにはじめて会ったのは1998年のことです。この時彼は、世界でもっとも重要な折り紙展示会、パリ・オリガミを取り仕切っていました。この時、私は彼の仕事を間近で見て、大変なアーティストであり、同時にあたたかで親切で楽しい事(やいたずら)が大好きな人間であることを知りました。でもやっぱり何よりも、彼はその名人と言つてもいい折り紙の技術において卓越していました。いわゆるデザインではなく、ここで言う技術とは、実際に紙をどう扱うかの技術です。ほとんどの折り手にとって紙の層が1つのカドとしてまとまってしまったら、1つ1つの紙の層は存在理由を失い、1つのものとして扱われます。しかし、エリックの仕事、



つまり彼の手にかかると、全ての紙の層、分子はそれぞれのアイデンティティを失わず、完成品においてもそれぞれの役割を維持しているのです。一度まとまったカドが再び広げられ、微妙なテクスチャ、髪の毛、微細な構造、感情、そして命に変化するのです。

このような紙の「完全な利用」は私にとって折り紙では不可能なものと思っていました。エリックの仕事を見た時、これは神の啓示であると思う程、「技術」に満ちあふれていたのを覚えています。エリックは私にとって友人であり、師であり、発想の源なのです。彼が亡くなった今も、彼の役割は私の中、そして折り紙界にとって変化のしようがありません。大きな心の折り紙の巨人として。



## ユニークで かけがえのない人

ポール・ジャクソン、ミリ・ゴラン  
Paul Jackson, Miri Golan (Israel)

エリックは、アーティストとしても、1人の人間としても、とても大きな人でした。

アーティストとしては、恐れを知らず、常に新しい技法、新しい紙、新しい表面、そして作品の新しい提示方法を実験していました。とびきり野心的で、完璧主義者でした。彼にとって、不可能なことや、実現するには大きすぎるプロジェクトは、何もありませんでした。彼が作り出したもののすべてが、未知への跳躍であり、折り紙の進歩へ向けた跳躍でした。

人として、彼はカリスマ的で、常に優しく、寛大で、誠実で、ユーモアにあふれ、とても謙虚でした。友人とでも見知らぬ人とでも、いつも共に時を過ごし、すべての人を尊重していました。他人に与えることには躊躇せず、他人からもらうことには遠慮していました。

彼はユニークで、かけがえのない人でした。アーティストとして、そして人としての彼の遺産は、折り紙がこの世にある限り生き続けるでしょう。



## ユーモアのセンスと哲学が作品に

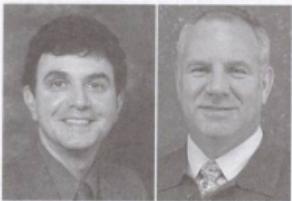
マイケル・ラフォース、リチャード・アレクサンダー  
Michael LaFosse, Richard Alexander(USA)

エリックの折り紙というアートへの貢献は折り紙界の至宝であるのは言うまでもありませんが、それに加え、彼のユーモアのセンス及び哲学が彼の作品からじみ出ていることも見逃してはなりません。彼のスタイルは、彫刻をしていたことの強い影響を受け、独自で他の追随を許さないものでした。実際、彼のコーティングした作品は、鈍く光る陶器やブロンズ像のように見えました。

私たちがはじめてエリックに会ったのは1997年のフランス折紙協会のコンベンションの時です。彼は空港で私たちを出迎えてくれました。それから私たちのアートに関する話は始まり、それからずっと再会する毎に私たちはその話の続きをしていたのです。その間の出来事に笑い合ったり、次は何が起こるだろうとわくわくしたり。

私たちはエリックの思いやり深い優しさ、才覚、苦惱の一瞬一瞬を「Between the Folds」という映画に美しく留めてくれたヴァネッサ・グールドさんに感謝の言葉はありません。彼の言葉、仕事は、これからも何人もの折り紙創作家たちを刺激し続けることでしょう。

人生をこれほど深くまるでマジックの様に変えてくれたエリックに感謝します。



## いつでも謙虚だったエリック

ジョセフ・ Wu (Joseph Wu)(Canada)

エリック・ジョワゼルは大変陽気な男で、いつも皆と彼自身そして彼のアートを共有する空間をこしらえていました。彼の折り紙を芸術の域まで高めた大いなる貢献にも関わらず、彼はいつも謙虚で、決して彼の功績を自慢したりはしませんでした。しかし、彼自身は常に折り紙界の彼に対する期待と闘っていました。それは、折り紙界の人々が彼のアイデア、作品を共有したいという期待です。本当に芸術家であった彼は、常に唯一無二の作品を作り出しており、他者が彼の作品を複製することは彼を傷つける事に他ならなかったのです。私自身もそうですが、エリックは彼の技術を新しいオリジナルの作品に使うことについては寛容でしたが、彼の作品を複製する事は好んでいませんでした。それにも関わらず、彼は非常に寛容に折り紙界に「与え」統一、一度も彼の魔術を盗みに来るものに対して不平の一つも言いませんでした。



2008年、イタリアコンベンションにて。左から、ヘルマン・ゲルベルジャン、ティビッド・ブリル、エリック・ジョワゼル。Photo by Yamaguchi



## ハリネズミ

布施知子 Fuse Tomoko(Japan)

ジョワゼルのことを初めて聞いたのは故藤田文章先生から。「すごいのがフランスにいて、ちっこいハリネズミをみたんだけど、かわいいんだよ」藤田先生は、ほほほと笑って、もう一度「見せたいなあ。すごいんだ」。その後本人に初めて会ったとき、その話をしたら、ちっこいかわいいのをひとつプレゼントしてくださいました。今机の上においてこの文を書いている。ジョワゼル。あまりにも早い言葉が無い。1998年は特筆すべき年でカルーセル・ド・ループルでのParis Origamiは、彼の作品と人柄を世界に示すまばゆい場となった。にぎやかに振る舞う一方ふと孤独な影を感じることがあった。折り紙で食べていくのはたいへんだ。ちっぽけなお金を集めているんだ、と言っていた。真に芸術を志す者は口を糊していくのが難しい。山口真さんの応援を得て、これからますますという時だったのに。折り紙界は大きな宝を失った。もっともっと活躍してほしかった。ご冥福をお祈りする。



## 折紙探偵団のアトリエ訪問の記事

佐藤直幹

Sato Naomiki(Japan)

エリックに最初に会ったのは97年のMFPPのコンベンションで、翌年の「パリ・オリガミ」展では日本人招待作家の通訳を頼まれたり顔を合わせてきました。私がパリで折り紙を教える様になったのも実は彼の誘いがあったからです。エリックのアーティストとしての面を詳しく知ることが出来たのは折紙探偵団のアトリエ訪問の記事(106号)を頼まれたことがきっかけで、快く自宅に招き入れてくれた上に面倒な質問にも丁寧に答えてくれました。写真はお掛けたポーズばかりで困りましたが今はいい思い出です。2年前に発症した肺ガン治療の体への負担は相当なものでしたが、合間に繋いで国外のコンベンションに出かけたり新作に取り組んだりと精力的に活動を続け、副作用で髪が抜けてもトレードマークの「ひげ」は残ったと笑っていました。彼の棺に最後の別れをして墓地を後にした時、曇り空からボツボツと雨粒が落ちてきて、まるで志半ばで逝ってしまったエリックが空の上から泣いているようでした。彼の代わりはいませんが、彼の示した芸術的な探究心は今後の世代に受け継がれていくことでしょう。私はそう信じています。



## 折り紙芸術の羅針盤

西川誠司

Nishikawa Seiji(Japan)

私が、エリック・ジョワゼル氏に初めてお会いしたのは、2004年に第10回折紙探偵団コンベンションに招待作家の一人としてお招きした時でした。懇親会で作品への賛辞を述べ、気さくに笑って日本に作品を幾つか置いていくことに快く承諾頂きました。2007年に、私がMFPPのコンベンションに参加した時に再会を果たし、2008年の関西コンベンション招待作家としてお会いした数少ないものですが、いつも折り紙の芸術性に関わる刺激を受けました。折り紙作家の知人、友人、先輩の訃報に触れていつも思うことは、もっと直接会って学びたかったという後悔です。53才というあまりに早いお別れに悲しみを表す言葉も見つかりません。どんなにか無念であろうと思うと悔しくてなりません。Origamiの世界は本当に偉大な芸術家を失いました。ジョワゼル氏の業績は個々の秀逸な作品にとどまりません。ジョワゼル氏は、彫刻や陶芸の完全な基盤を持って折り紙に取り組みましたが、またそれだけに折り紙を選ぶ本当の意味を追求した人でもありました。氏のアプローチは、これから私達が進む折り紙芸術の羅針盤となるべきものです。心からのお悔やみを申し上げます。



2004年、第10回折紙探偵団コンベンションのゲストとして講演。

Photo by Yamaguchi



## ジョワゼル本を終えて

松浦英子(日本、おりがみはうす)

Matsuura Eiko(Japan, Origamihouse)

「チャーリー?(お茶飲む?)」2010年4月。写真集の取材に訪れていた私達に、ジョワゼルが声をかける。暖かな春の日差しが降り注ぐキッチンは、時間がゆっくりと流れている、彼が余命宣告されているなど嘘に思えた。ジョワゼルは、持っているだけのデータを全て山口さんに託していた。持ち帰った膨大な数の写真とテキストを整理しながら、すごい仕事を引き受けてしまったと思った。それから半年間、時にジョワゼルは迫る死の恐怖に怯えていた。私たちは、本の途中経過を見せてしか励ます手段を持たなかつたが、彼はそれを心待ちにしてくれた。結局、期待に応えようとして当初の予定よりカラーは16ページ増え、1色ページ(彼の折り紙に対する考え方や経験の記事)は倍の64ページになった。この本を通して折り紙界の若者に受け継がれ生き続けることを願ってやまない。まえがきの「これは友情の賜物です」という彼の言葉が、私達の宝物となった。



## 遅くなつてごめんね

山口 真(日本、おりがみはうす)

Yamaguchi Makoto(Japan, Origamihouse)

エリックとの出会いは、1998年にシャーロットで開催されたサウスイースト・オリガミフェスティバルで、その時から彼の陽気で人間臭い人柄に惹かれ、ずっと付き合ってきた。

2005年にザルツブルグのハンガー7で開催されたマスターズ・オブ・オリガミ展からの帰りでは、パリまで彼と同じ飛行機だった。パリの空港に着くと、エリック自身は別方向であるにも関わらず、不案内な私達をターミナル1から3まで連れて行ってくれた。気さくで深い気遣いのできる人間だった。



彼の作品に惚れた私は、彼の写真集を作ろうと思い立ち、2年前に計画をスタートさせた。いつもの事ながら出版は遅れ、何とか完成間近となったとき、彼の危篤を知った。すぐに本のゲラ刷り(版下データのコピー)を持ってパリへ発とうと準備したが、数時間後に訃報を聞いた。見てもらえなかったゲラ刷りを胸に、彼の葬儀へ参列した。間に合わなくてすまないという気持ちで一杯だった。遅くなつてごめんねエリック、また直に会えるよな。

生前に購入した彼の作品が手元にいくつかある。私が健在な限り、これらは大切におりがみはうすで展示していようと思う。

## 丁寧な方

立石浩一

Tateishi Koichi(Japan)



私がエリック・ジョワゼル氏とお会いしたのは二度、最初が2004年の第10回折紙探偵団国際コンベンションの時、二度目が、2008年の第9回折紙探偵団関西コンベンションに、彼を講演者として招待した時です。ただし、その間、そしてその前、後も、山のような電子メールが我々の間を行き来していました。私は単に彼の言葉を通訳したり、関西コンベンションでの同時通訳の補助をしていただけなんですが、とにかくマメに準備のためのテキストやら分からぬ点はないかとか声をかけて下さり、おそらくこれほど丁寧な人というのは今までにどの世界でも見た事がないという位丁寧な方というのが第一印象でした。2004年に見たときと、2008年で、彼の作風はがらりと変わっていたので、元々非常に芸術性の高い方と思っていたのですが、それにも驚かされました。一方で、陽気ででもちょっと陰のある彼の人間性にも私は魅かれていきました。

今回、彼の本を翻訳するのにも、何度もメールの行き来がありました。それが完結しないままであることが、残念であるとともに、続きがあることへの期待としてとらえようと思っています。記録だけでなく記憶も作ってくれたエリック・ジョワゼル氏に心から感謝しています。

# 『千羽鶴折形』再訪

"Senbazuru Orikata" Revisited

岡村昌夫  
Okamura Masao

## 第2回 誤写、誤校訂いろいろ Misreproductions and Hypercorrections

### 『閑田文草』

『千羽鶴折形』の編著者、秋里籬島の生涯については、判らないことが多い過ぎる。諸種の「名所図会」をはじめ多くの著作がありながら、史料に登場して来ないのだ。

平安時代の風流人「河原の左大臣」が塩竈の景を移して楽しんだと言われる「河原の院」の旧跡とされる五条河原付近に住んで、そのゆかりから「籬の島」をペンネームにしたことや、作庭関係の著作があることから、いわゆる「河原もの」の出身だろうと推測されるのが普通だが、逆にかなり上流の人の世を忍ぶ仮名だろとする説も無いではなかった。

そのころ京都に伴蒿蹊という国文の先生がいて、「ふみの会」という作文研究会の開催を長く続けるなど、平安時代の文章を手本とした和語による散文の文体を確立しようと努力していた。その蒿蹊の文集『閑田文草』(1703年刊)の付録に門人69名の作文が載せられていて、その中に秋里籬島の「鳥」と題する文が出ているのだが、あまり上手だとは言えない。古文の素養は深くなかったように感じられる。よく言えば型を破っている。これは出身階層の問題に關係するだらうと思うのである。

例えは、文末の「雁」の項で「さやけ月にしばしくまなすもなかなかをかし。」と書いているが、一点の墨りも無い月を「くまなき月」という極り文句を利用して、雁の飛ぶ姿が月の表面に陰を作っているという意味を表現している。

しかし「限なし」という形容詞を「限

なす」という動詞に転用するという破格は、よく先生が許したものである。語学にやかましい国学者なら認めないと管だ。

活字本(叢書江戸文庫)で、書き出しの「うぐひす」の部分に「桜はさらなり。」とあったので驚いて、国会図書館で原板本を調べてみると、ちゃんと「梅はさらなり。」となっていたので安心した。「桜」と「梅」の草書体は似ているが、校訂者が「梅に鶯」を知らない誤が無いから、これは単純なミスプリントなのだろう。

### 『嬉遊笑覽』

孫引きの種本にされていた『嬉遊笑覽』についてはよく知られているので簡略にしておくが、「折形の蛙[清輔朝臣集]女をうらみて云々青き筋ある紙にてかへるのかたを作りて書きつけてやりける云々/折居の鳥[一代男](一)或時はおり居をゆかし比翼の鳥の形は是ぞ云々」の二項がよく引かれるのでご存知だらう。

前項の「青き筋ある紙にて」の「紙」は「群書類従」によつたもので、他の諸本では「瓜」などであるという話を聞いた或る折紙人が、「紙」を異体字の「帯」と書いて、「瓜」と誤写したのだろうという思いつきを言ったことがある。20年も前のことだ。ところが最近出版された某書に、全く同じことが書

かれていた。平安時代に蛙の折紙が有ってもらいたいという共通の願いがそういう素人談義を生むのだろうが、そう短絡的に誤写説を立ててはいけない。仮に「帯」が「瓜」になったという説が成り立つなら、同時に「瓜」が「帯」になったという説も成り立つことがお分かりにならないのだろうか。諸写本が漢字で「紙」「帯」と書かずには假名書きをしていることや、実際の写本が「うり」「かい」「かは」と書いていることをどう説明するのか。この問題はここでこれ以上は述べる余地がない。

もう1件の「好色一代男」の方が「おり居をゆかし」となっているのは、明治時代の校訂者のミスであること明白である。これでは意味が通らず、原板本の影印本で見てみると「おり居を。あそぼ。」であるし、去年全5巻が完結した、原著者自筆本を底本にした岩波文庫本『嬉遊笑覽』に「折り居を遊ばし」とあるのを見ると、漢字の「遊」の草書体を、いわゆる「変体かな」と



図版上、宇津保物語、延宝5年刊本刊本(国会図書館蔵)、左、その部分拡大

○岡村昌夫（おかむら・まさお）＝1934年東京生まれ。折り紙の歴史研究家。日本折紙学会顧問。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。



勘違いしたものであることが推定できる。「か」と「は」の仮名はよく似た字体を使用することがあるので、「遊ばし」「がゆかし」になった事情はよく分かるのである。孫引き失敗の1例に過ぎないが、これなどは罪が軽い方である。先入観もしくは無知による筆写の誤りや、とんでもない校訂が世を惑わすことも頻繁に起こっているのだ。

## 『宇津保物語』

平安時代に「折鶴」が存在していたという「事実」を作ってしまった罪深い例があるが、あまりにも馬鹿馬鹿しいし、折紙人が読むような本ではないと思ってどこにも書かないで来たが、最近、某シンポジウムの研究部会で話題に取り上げられていたので、一応書いておこうと思う。

源氏物語よりも古い「うつほ物語」（宇津保物語とも）に「折鶴」が出てくるというのである。1959年岩波書店刊の『宇津保物語一』（日本古典文学大系）343ページに「折鶴の文の指貫」と確かに出ていて、折鶴の織り模様のある袴という解説まで付けてある。この大系には別冊の索引が付いていて簡単に見出しが出来るので、ある人から質問されたことがある、と言うよりも、有職の装束に通じている人だったので、そんな馬鹿げた事実がある訳が無いという意味の確認をされたことがあって、大苦笑をしたのだった。10

年以上前のことである。

少し説明しよう。この古典大系本の宇津保は、1677年（延宝5）の刊本を底本にして校訂し、活字化したものだが、「四系統中最も信用がおけないもの」です。この系統から派生したと思われる最も混乱を極めたものが延宝板本即ちここに用いた底本です。」と校訂者自身が悲鳴をあげている、問題の多い本なのだが、もちろんその本に「折鶴の」などと漢字で表記されている訳ではなく、校訂者河野多麻氏の解釈に過ぎない。原本には句読点も無いかから、この前後を原文に近付けて抜き出すと次のようになる。

「まかりの御そをりつるの文のさしぬきあやかいねりのうちきあはせのはかまへうのかわのしさある御はかしたてまつりて」

これが校訂されて、「狩の御衣、折鶴の文の指貫、綾、搔練の桂、衿の袴、豹の革の云々」となったものだ。原本の仮名は2字以上続書きをしている部分があるので、続けていいところを／の記号で示すと、

「御そをり／つる／の／文／のさ(改行)しぬき／あや／か／いねり／の／うちき／あはせのはかま／へう」となる。切れる語を続けて書くことはしていない。従って、この筆録者の意識では校訂者のごとく「御そ、をりつるの文の」とは読みず、「御そをり、つるの文の」と理解していた可能性が高いのだ。また原本には後世の人が記入した句読点がついているが、その点も「をり」と下に付けてある。「をりつる」と読まれた形跡は見られない。少なくとも、この用例をもって平安時代に折鶴が装束の模様にもなって

いたとは言えない。前例を重んじ、細かい規制のあった貴族の装束の世界で、その後も折鶴模様などは存在していないのだ。

「をり」の部分の他本での異同を調べると、「紀氏本」他で「奉り」となっているのが注目される。それだと意味もよく通じるし、「奉」の草書体は「を」と字形が似ているので、誤写の可能性も高いのだ。それにもかかわらず「折鶴」にするとは、あまりにも短絡に過ぎた。残念である。

実はこの校訂者の夫君は碩学の河野与一氏である。氏は折紙好きで、1958年岩波書店刊『學問の曲がり角』の中で「西洋の折紙の話を書いているし、吉澤章氏とも親交があつた。日本の折紙がいつごろまで遡れるかという問い合わせをしている人だから、「残念」と思う次第である。

（原稿提出：西川



少しだけ古めの日本画風の図。平安時代の貴族の装束を描いたもの。左側の人物の腰元の模様が「折鶴」の模様である。右側の人物の腰元の模様が「千鳥」の模様である。

河野与一著「學問の曲がり角」所収「西洋の折紙の話」より

奉  
世  
南

「奉」の草書体、  
「草書の字典」  
講談社学術文庫

# 医療にはじめる 22.5度系創作法

Creating Models Based on 22.5° for Novices

小松英夫 Komatsu Hideo

## 第2回 円図—樹状図—基本形

Circle Packing, Trees, and Bases

**前**回は、前川分子を並べて展開図を作るところまで行いました(図1)。この展開図を実際に折っていくわけですが、折る前にあらかじめどんな形になるのかを調べてみよう、というのが今回の内容です。具体的には、展開図に〈円領域〉〈帶領域〉を描き込みます。

### ■円領域と帶領域

図2は、前回扱った前川分子4種それぞれの〈円領域〉〈帶領域〉を示した図です。円領域は、ご存知の方も多いかもしれません。折り出されるカドを、展開図上で円として捉えたもので、この円の半径がカドの長さに対応します。帶領域はカド同士を繋ぐ部分に対応し、帯の幅がその長さになります(図3)。

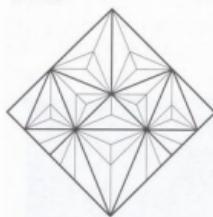


図1:前回作った展開図

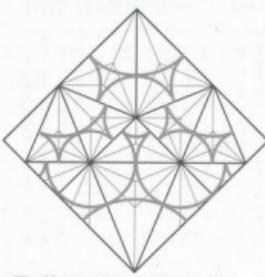


図4:前回の展開図の、分子一つずつに円領域の円弧を描き込んだところ

### ■円図を描く

まずは、分子1個1個に、図2の円弧を描き込みます(図4)。

次に、円弧の途切れている線を、隣り合う分子に延長させていきます(円弧同士が交差することのないように線を引きます)。これで、展開図上の円領域配置を表す〈円図〉が描けました(図5)。以上の作業で、自動的に〈帶領域〉も描けていることが分かります。

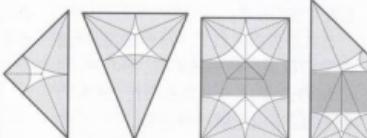


図2:前川分子4種に円領域(薄い灰色)と帶領域(濃い灰色)を書き加えた図

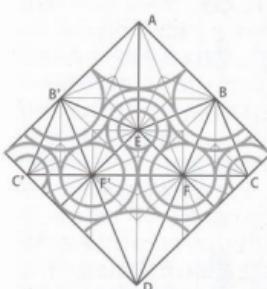


図5:円弧を隣の分子に延長して、円図が描けました

### ■円図から樹状図へ

次は、この円図に対応する〈樹状図〉を描いて、基本形の折り上がりがどんな形になるかを調べてみましょう。樹状図は、線分の繋がりでカドの生え方を単純に表した図です。慣れないうちは、いったん図6のように円領域と帶領域を“ほぐして”みると、位置関係を間違える心配がありません。円領域・帶領域の位置関係を線分に置き換えて、図7の樹状図となります。図5と見比べて、同じ位置から生えてくるカドが、展開図上で共通の帶領域に接していることを確認してください。

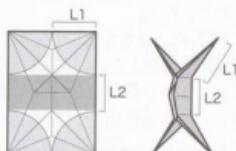


図3:長方形分子の円領域・帶領域と、折った形を上方向から見た図

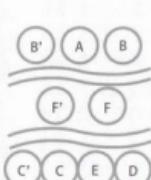


図6:円と帶の位置関係を簡略化(圓の都合上、円領域の大きさを変えています)

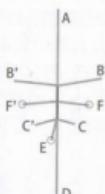


図7:図5に対応する樹状図。内部から折り出されるカドには、圓のように○をつけておくと分かりやすいでしょう

○小松英夫(こまつ・ひでお)=1977年生まれ。今回もまた、登場する用語は、自黒後幸さんによる設計理論に基づくものです。



## ■実際に折る

では、実際に折ってみましょう。必然的に〈展開図折り〉のスキルが要求されるわけですが、〈前川式〉の展開図は使われている分子が限られているので、折り畳みのイメージを比較的持ちやすいと言えます。

展開図折りの基本は、全ての折り筋をつけてから、分子ごとに山谷をつけ、全体へと折り進めていきます。原則として、折り線が集まっている点で、山・谷・山……と交互になるように山谷をつけます(つまり、必要に応じて分子の山谷を反転させます)。図8が山谷の区別をした展開図です。折りがロックする箇所があるため、慣れていない人は折り畳みに少し手こずるかもしれません。

折り畳んだ形は写真1、2のようになります。カドの枝分かれのようすを図

7の樹状図と見比べてみましょう。確かに樹状図どおりにカドが折り出されている……のですが、内部カドE, Fは紙の層の間に隠れてしまっていて、樹状図とは少々異なる印象を受けるかもしれません。これはどうしてかと言うと、樹状図におけるカドは太さのない線で表されているのに対して、実際のカドは(22.5度の倍角分の)太さを持っています。

## ■円図から分かること

円図を描く工程(図4から図5への変化)で、気づいた方もいると思いますが、隣り合っている分子の円領域の大きさが違うと、折り出されるカドの長さが小さい円領域に引きずられてしまい、そこに帶領域が発生します(図9)。生じた帶領域は、隣り合う分子へと次々に繋がっていき、結果思わずところに影響が出る場合があります。前

回、なるべく分子のチ同士を合わせる方が良いと書いたのは、そうした不要な帶領域の発生を抑えるためのコツでした。また、切り出しナイフ型分子がちょっと扱いにくいと書いた理由も同じです。切り出しナイフ型分子は、円領域の大きさにばらつきがあるからです。

逆に考えると、このポイントを押さえれば、「カドを長く折りたかったのに短くなってしまった」というような事態を避けることが容易になります。そのカドを構成する分子の中で、小さい円領域のもの(カドを短くしている原因)を大きい円領域のものに置き換えればよいわけです。

この連載では、「分子を適当に組み合わせる」方法で設計をしていますが、経験を積むことにより、対応する樹状図を予想しながら分子を配置することができるようになるでしょう。予測が立つようになればなるほど、より確実な〈折り紙設計〉が可能になります。

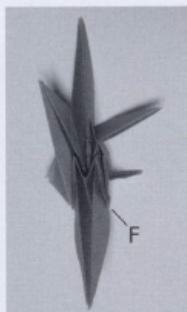


写真1:上から見たところ。樹状図との比較のため、右側はカドを立ててあります



写真2:内部カドFを外に出し、横から見たところ。二価分子であるYバターン分子を使用しているので、B, Dのカドは斜めに生えています

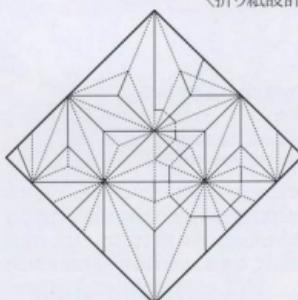


図8:左半分は分子の基本の折り線のみ、右半分は、平らに折り畳むために必要な全ての折り線を描いてあります

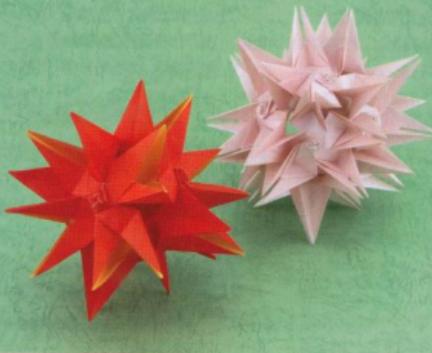


図9: 小さい分子の灰色の円領域のために、大きい分子に帯領域が発生

ギンナンの刺激臭に閉口しつつ、いつのまにか季節が回っているなあと思う今日この頃。  
歩きながらアイデアを練るのにちょうどいい気温も、あっという間に過ぎ去るのかも……。

「カンムリヅル」作：山本大雅（P.34）  
Crowned Crane : Yamamoto Taiga (P.34)

■扇のような特徴的な頭部は、よく見てみるとミウラ折り！ さらにその他のパーツについても、意図した構造どうしが展開図上できちんと連携し、デザイン密度が適切にバランスしています。急成長中の期待の若手、次回作も楽しみです。



「イガイガトゲトゲ」

作：川崎敏和（P.4）

Burrs, Spine: Kawasaki Toshikazu (P.4)

■カドを螺旋でよりあわせていくうちに、ユニットがガツチリ頑丈に組み上がります。正多面体の構造だけではなく、非対称にモコモコと広げて見るのもおもしろそう。大規模に拡張したらナマコや毛虫、珊瑚礁のような形もできるのでは？…などと妄想が広がります。

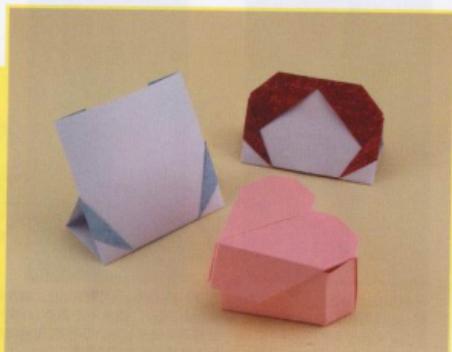
「一枚折りのハートの箱・ネームプレート」

作：やまぐち真（P.8）

Heart Box (from an Uncut Rectangle),  
Name Plate : Yamaguchi Makoto (P.8)

■単純な形で無味乾燥になりがちなネームプレートも、こんなふうにすると不思議な違和感で注目が集まります。模様や輪郭がなにかに見立てられるようでもあり、具体的になにかと言われるとちょっと困るようでもあります。これをきっかけにして、初対面どうしでも会話がはずむかも？

ハートの箱と併せて、今号も充実した実用作品ラインナップでお届けします。



# 『エリック・ジョワゼル ー折り紙のマジシャンー』より ERIC JOISEL -The Magician of Origami-

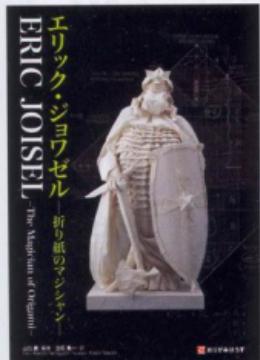
■縦横無尽に溢れる生命とエネルギー。折り紙をする人にも、折り紙を全く知らない人に対しても分け隔てなく、強烈な衝撃と深い感銘を与えてきたジョワゼル氏の作品群。こんな凄い作家がいたことを、さらにより多くの人に伝えたい。そして、語り継いでゆきたいのです。



►老王  
The Old King



►オーケストラ  
Orchestra  
※現在、この作品は江戸川  
アートミュージアムにて展  
示されています。



▲12月1日発売予定の「エリック・ジョワゼルー折り紙のマジシャン」表紙

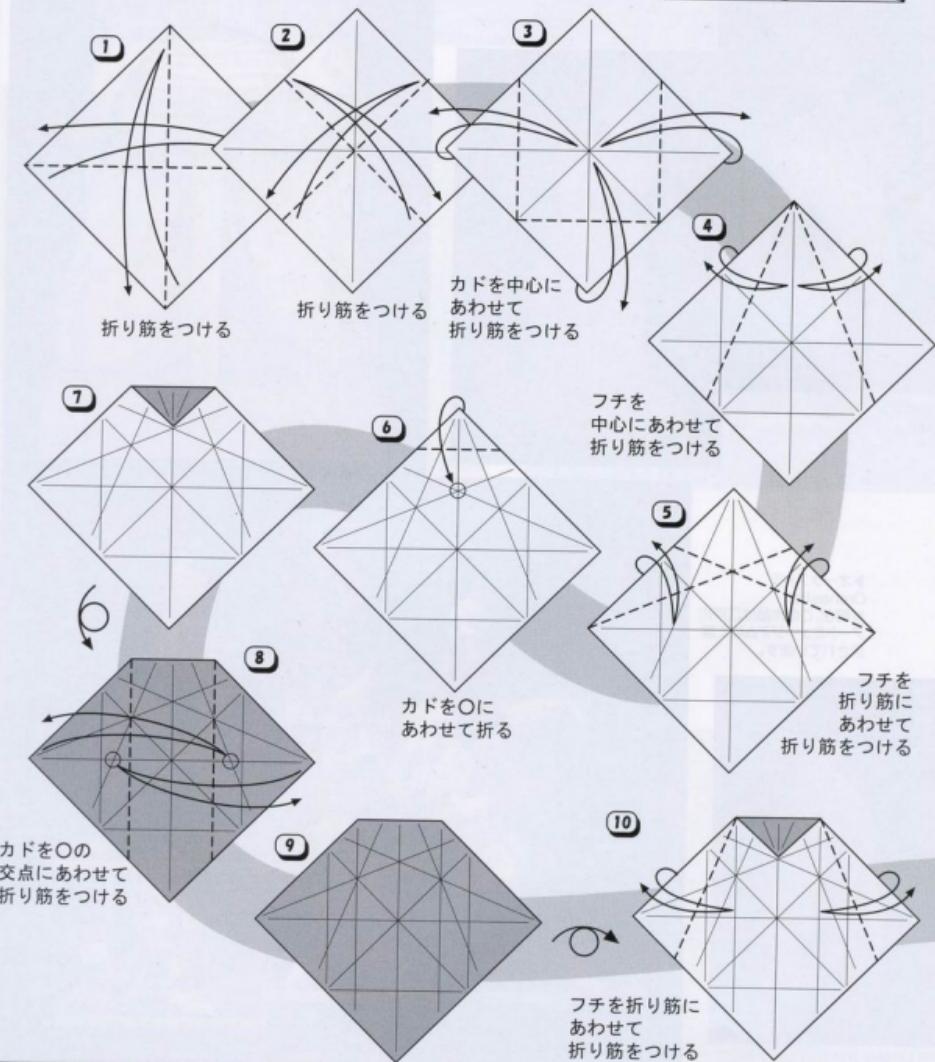
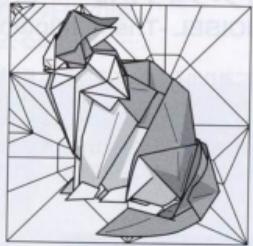


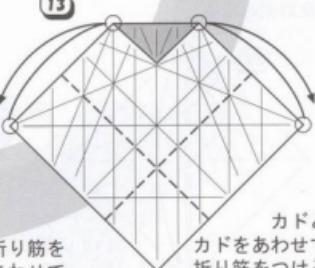
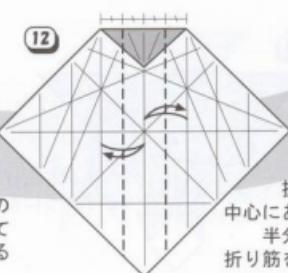
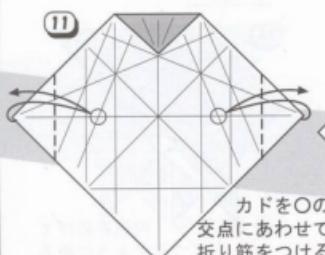
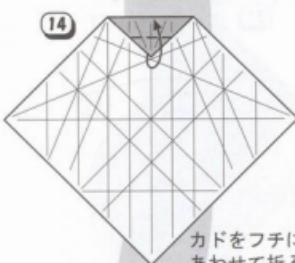
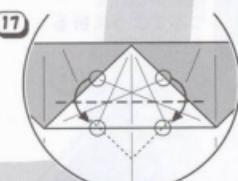
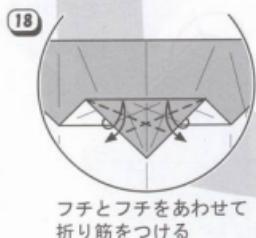
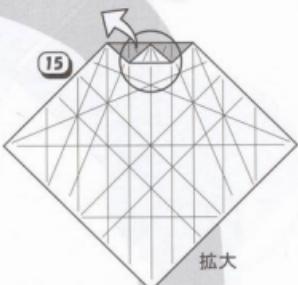
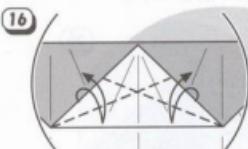
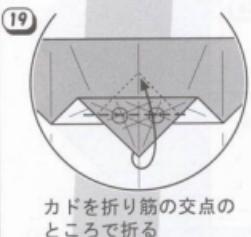
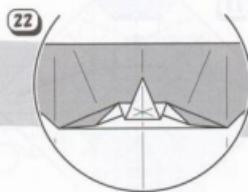
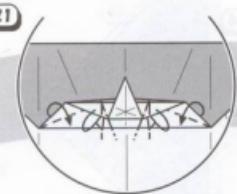
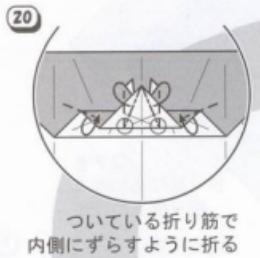


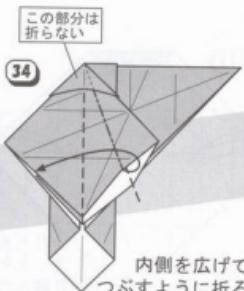
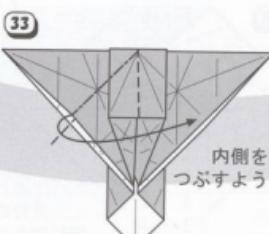
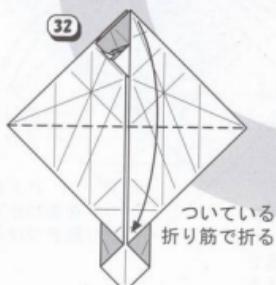
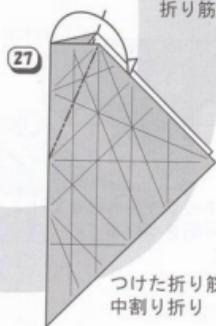
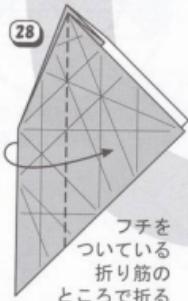
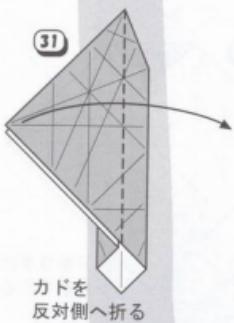
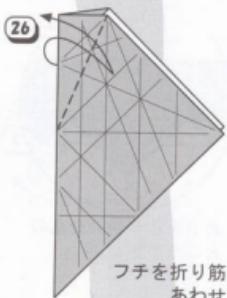
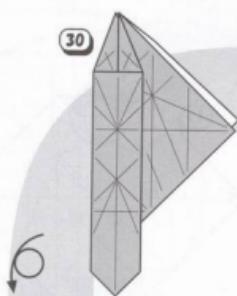
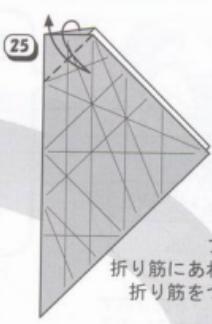
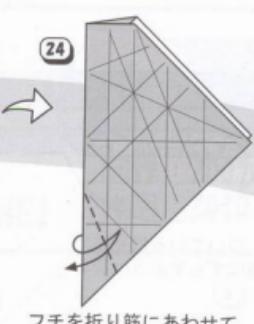
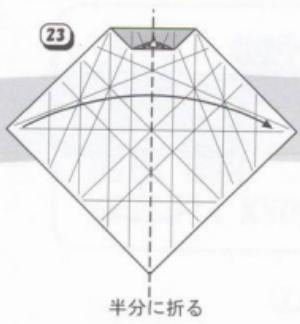
# 猫 Cat

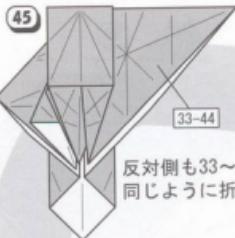
勝田 恭平  
KATSUTA, KYOHEI

創作: 2007/02  
作図: 2010/05

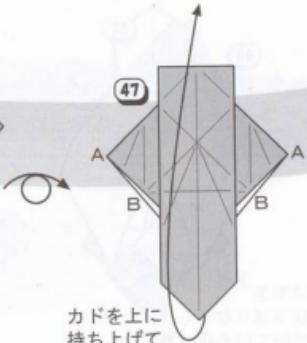
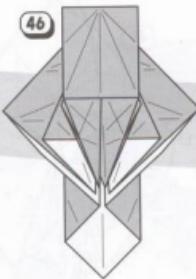




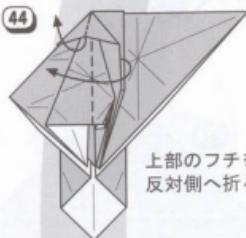




反対側も33~44と  
同じように折る



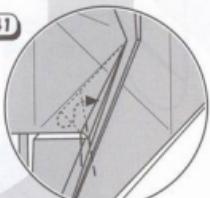
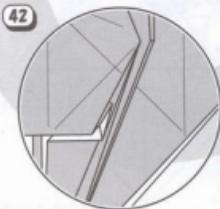
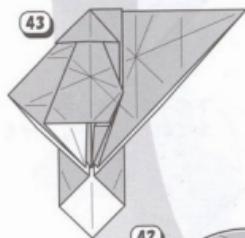
カドを上に  
持ち上げて  
立体的な状態にする



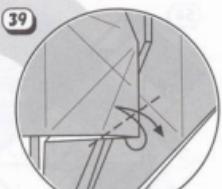
上部のフチを広げながら  
反対側へ折る



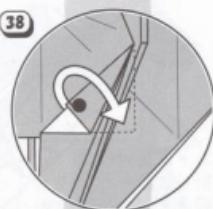
ついている折り筋で  
内側に折り込む



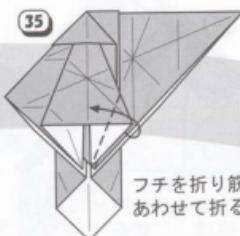
内側のカドを  
39でつけた折り筋で  
中割り折り



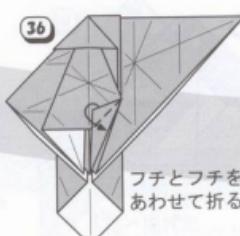
フチを折り筋にあわせて  
折り筋をつける



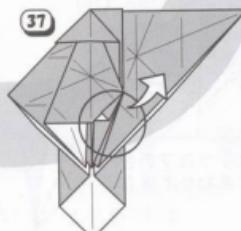
●部分をつまんで  
内側の紙を引き出す

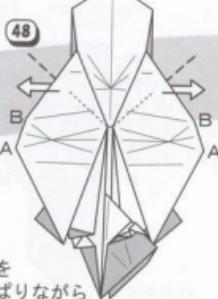


フチを折り筋に  
あわせて折る

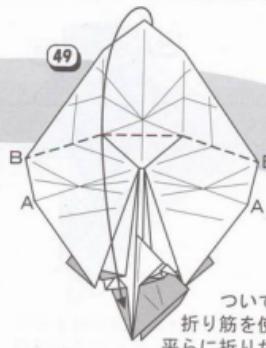


フチとフチを  
あわせて折る

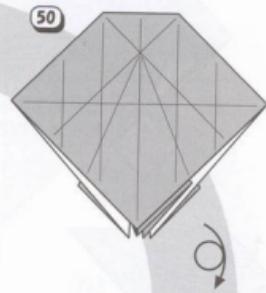




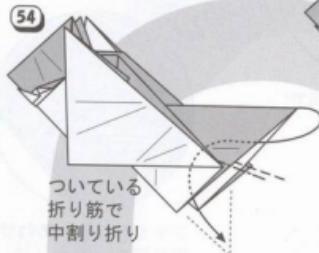
フチを  
ひっぱりながら  
付いている折り筋で  
平らになるようにする



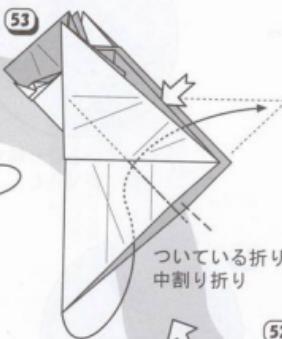
B  
A



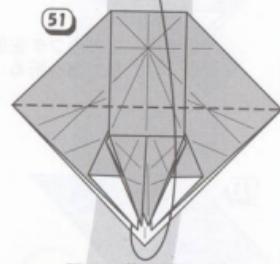
ついている  
折り筋を使って  
平らに折りたたむ



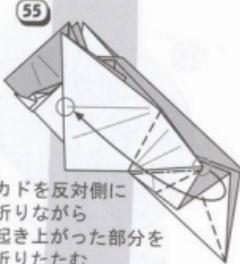
ついている  
折り筋で  
中割り折り



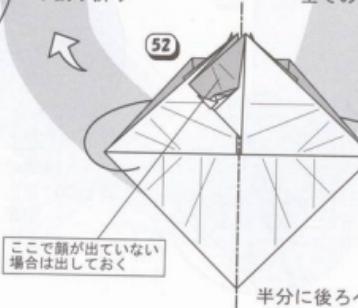
ついている折り筋で  
中割り折り



下の一枚を残して  
全てのカドを折り上げる



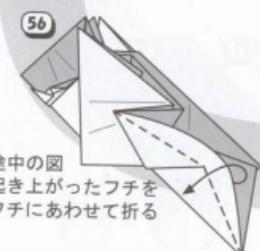
カドを反対側に  
折りながら  
起き上がった部分を  
折りたたむ



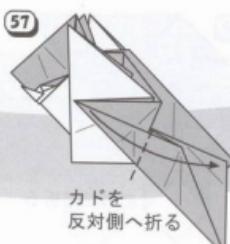
ここで顔が出ていない  
場合は出しておく



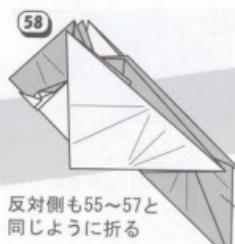
半分に後ろへ折る



途中の図  
起き上がったフチを  
フチにあわせて折る

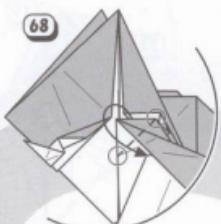


カドを  
反対側へ折る

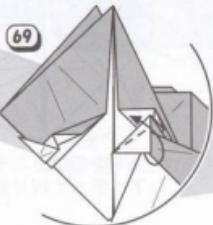


反対側も55~57と  
同じように折る

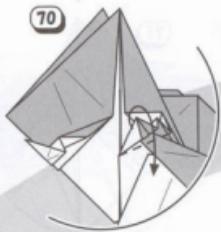
55-57



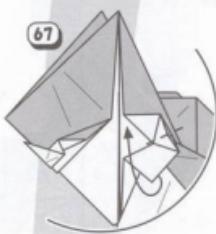
カドと前工程でつけた  
折り筋の○を結ぶ線で折る



カドを斜めに折る



66でつけた  
折り筋で折る



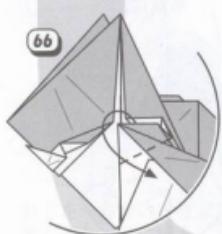
折り筋をつけたら  
カドを戻す



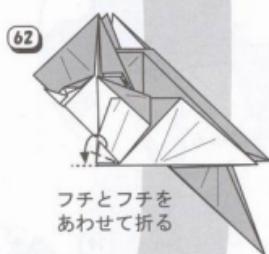
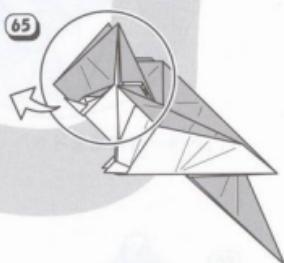
反対側も59~63と  
同じように折る



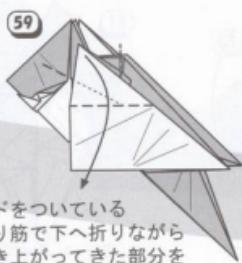
ひきよせるように  
内側に折り込む



広げられるいっぱいの  
ところでカドを折る



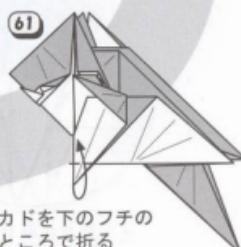
フチとフチを  
あわせて折る



カドをついている  
折り筋で下へ折りながら  
起き上がってきた部分を  
広げてつぶすように折る



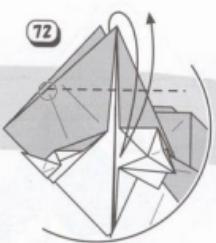
カドを斜めに  
後ろへ折る  
中割り折りではない



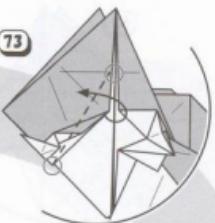
カドを下のフチの  
ところで折る



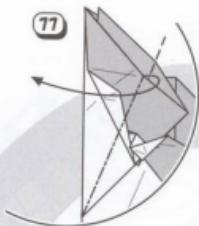
反対側も66~70と  
同じように折る



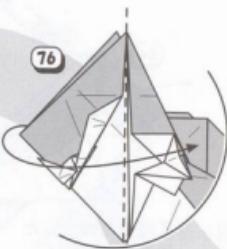
カドを○のところから  
下へ折って折り筋をつける



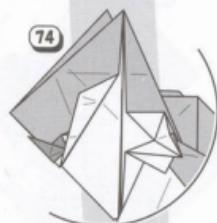
カドを前工程でつけた  
折り筋の○と○を  
結ぶ線で折る



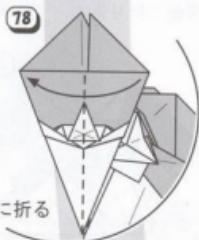
内側を広げて  
つぶすように折る



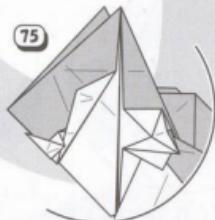
カドを反対側へ折る



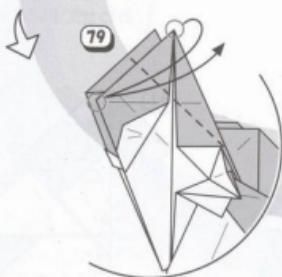
部分を  
手前に出す



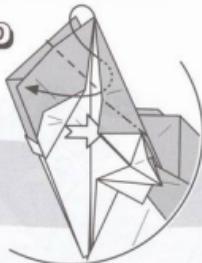
半分に折る



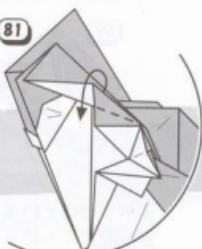
反対側も72~74と  
同じように折る



カドとカドをあわせて  
折り筋をつける



つけた折り筋で  
中割り折りの  
ように折る

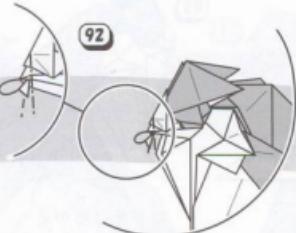


カドをひろがる  
ところで折る

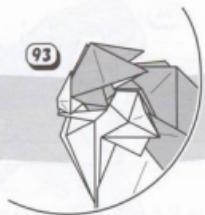
91



92



93



90



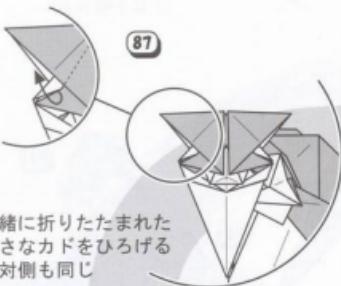
あごの部分を引き上げながら  
顔を半分に後ろへ折る  
角度は次図の○にあわせる

89

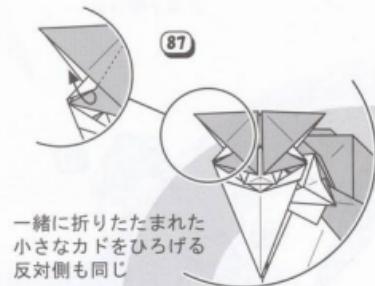


カドを一番奥のすきまに  
差し込むように折る

91



87



一緒に折りたたまれた  
小さなカドをひろげる  
反対側も同じ

86



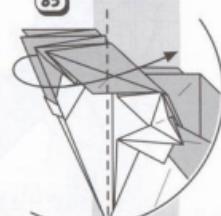
カドをひろがるところで  
斜めに折る

88



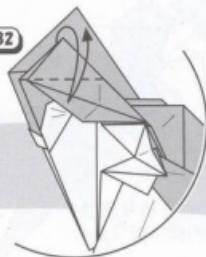
カドを反対側へ折る

85



カドを真ん中の  
ところでひろげる

82



カドを下へ折って  
折り筋をつける

83

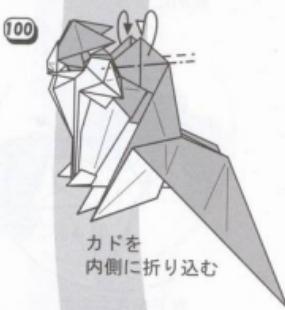
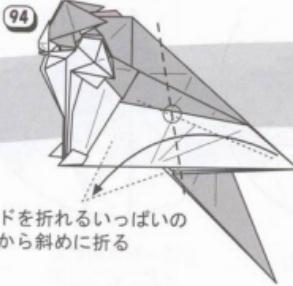


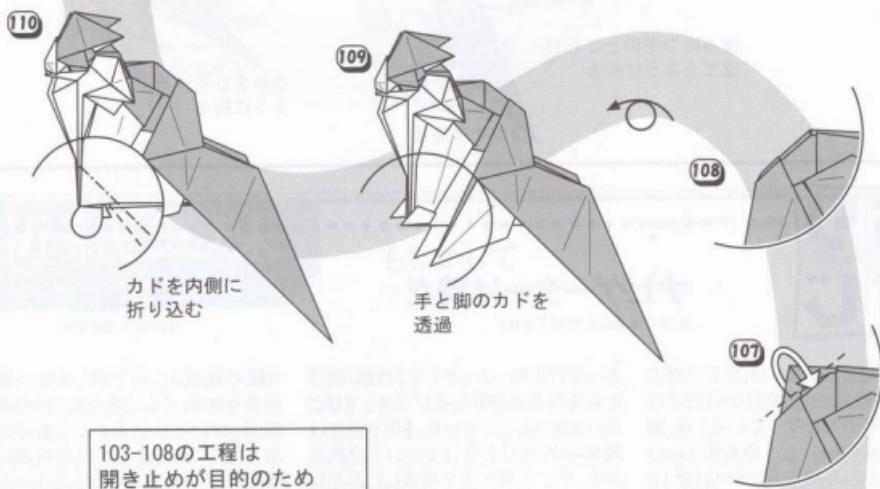
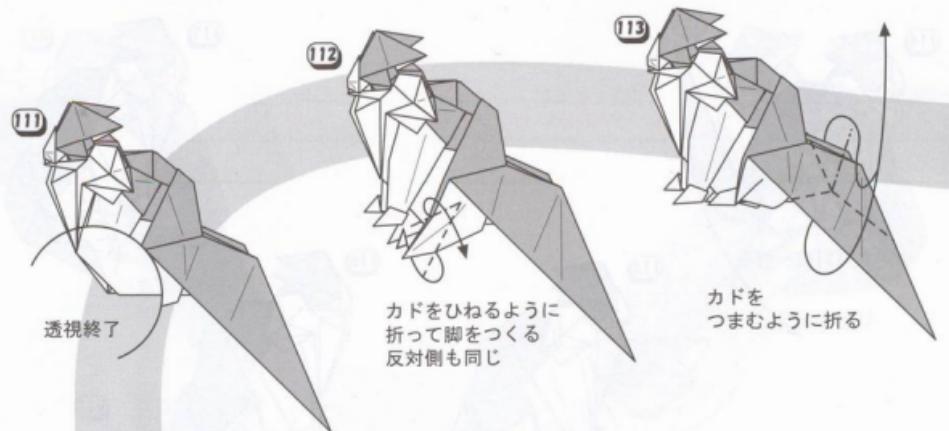
つけた折り筋で  
中割り折り

84

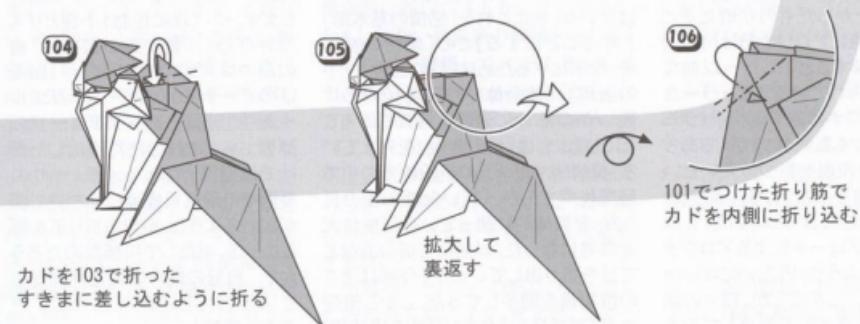


反対側も79~83と  
同じように折る

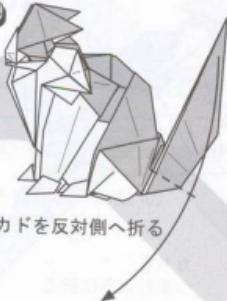




103-108の工程は  
開き止めが目的のため  
紙によっては省略可能です



114



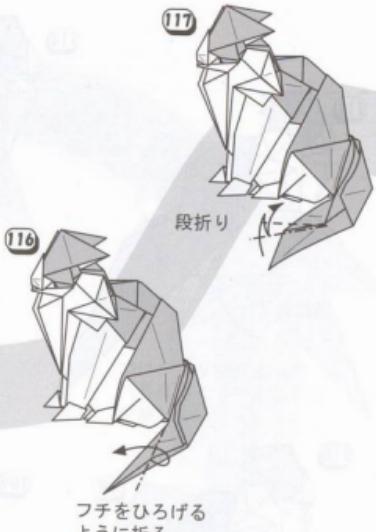
カドを反対側へ折る

115



後ろのフチのところで立てるように折る

116



フチをひろげるようすに折る

117



段折り

# おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

## ナビゲーターは魂だ

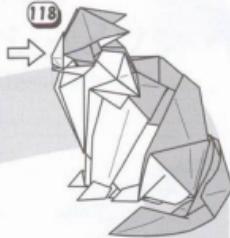
It Is the Soul that Folds

霞 誠志  
Kasumi Seishi

去年のことになるが、江戸川近くの熱帯魚ショップで見かけたアロワナが折りたくなっているいろいろ調べているうちに、五十嵐智祐さんのアロワナの写真を見つけた(第10回関西コンベンションの展示作品: 115号参照)。そこには鱗が折り出されたリアルなアロワナがあった。私が創りたかったものが既にそこにあった。急にアロワナ熱は冷め別題材を探すことにした~以前なら、既に折られているポピュラーな題材(アロワナはあまりポピュラーではないかもしれないが)であっても新しい表現を見つけたいという思いが強かった。今までに無いものを折ると公言もしていた。しかし、他のアプローチによるアロワナを折ってみようという思いはいたらなかった~このことが、自分の創作に対する考え方を見直してみる

きっかけになった。そして自分の創作に新たな要素「感情」をプラスしてはどうかと思うようになった。【折り紙には幾何学的背景と見立てという特徴がある。そこで、線と面で構成した形を仮に犬に見立てることが出来るなら、逆に喜怒哀楽のような感情に見立てられる様式化した折りが存在するのではないか。仮にこれを「感情の基本形」と呼ぶことにすると】この「感情の基本形」を形にするために「目の表現」、「手の表現」、「体全体での表現」のように幾つかの部分に分けて考えてみることにした。今は「目の表現」を考えている。探偵団マガジンの折線雑考の中で目黒俊幸さんが、「若い女性の顔の折り方」を具体的に語っている記事が大変参考になった。以前にも猿の面などで目を折り出しているが、今回はその情報量を増やしてみた、しかし情報を多く詰め込もうとすればするほど、折

り紙の性質上、出て欲しくない線が多くなる、そして未だに「目の表現」については納得のいくものは出来ていない。そこで気分転換に作品の感情表現を補助するツールという感覚でタイトルを考えてみた(これはタイトルだけで作品はまだ無い)。ここでその幾つかを紹介します。<「森に住む」小鹿とリスの好奇心、「蒼い森の銀狐」、「南の島のコタングルカムイ」、「田んぼのピーナス」女蛙～アマガエル～誕生」、「光と影～メデューサの憂鬱」> これをただ形にしただけでは意味がない、メデューサの憂鬱での最終目標は作品を見て涙が溢れるような、泣ける折り紙を折ることだ。果たして可能なのだろうか? 自分の創作は何処へ向かっているのだろうか……ナビゲーターは魂だ。



正面から見る

118



耳をひろげる

119

120



鼻先をつまむ

121



122



できあがり

# 折紙三昧

53

Origami-Zanmai ( This Origami and That )

## もしかして

I'm Sorry If You Mind, But Did You Mean ...?

インターネットの検索はホントに便利です。適当なキーワードを入れて、検索ボタンを押すだけで、たちまち関連する話題が洪水のように出てきます。あらためて言うまでもなく、仕事でも、プライベートでもこの検索機能の便利さを手放すことは考えられなくなっています。それでも、やや古い人間に属する私は、検索した結果の信憑性や情報の責任の所在については、結構不安を感じます。仕事場で部下や同僚がネット検索してきた情報を鵜呑みにしないように、検索先の記述の合理性をどう考えるか、情報ソースが記載されているかなど、ちょっと口うるさく言ったりしてしまいます。情報の本当のオリジナルに到達するのは希だと悟りしておかなくてはなりません。

ん。一種のネットリテラシーとでもいうのでしょうか。まあ、由緒正しい論文でも孫引きの参考文献の記載は怪しいことが多いので、今にはじまったことでかもしれません。

さて、何時の頃からか（＊）、検索最大手のGoogleにうろ覚えや不正確な検索語に対して「もしかして」と正しいかもしれない検索語の候補を示してくれる機能が登場して、これも重宝します。英語版は、「Did you mean」とのことですが、英語の語感は分かりませんが、「もしかして」と聞かれる日本語の語感は悪くありません。さり気なくあなたのお探しのものは、これでどうかと聞かれると「そうそう、それ、それ」と思わず独り言。

折紙者にとってこの感じ、ちょっとした既視感を覚えます。例えば、馬でも

創作しようか、と思って紙を折っていると突然、犬の形が見えて予定変更。そんなとき、折り紙の方からさり気なく「もしかして：あなたが折ろうとしたのは“犬”？」とささやいてくれたような気がします。

ネットでも、折り紙でも、人でも「もしかして」と優しく、さり気なくささやいてくれるのは有り難いことです。

\*これまたネットで調べたところ2004年の後半に日本語版が登場しているようです。間違っていたらごめんなさい。私が気になり出したのは、その2年後くらいかな。

西川誠司 Nishikawa Seiji  
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに

Crease Pattern

Challenge!

# 挑戦!

第68回

## カンムリヅル

Crowned Crane

### 山本大雅(15歳)

Yamamoto Taiga

Created : 2010/07

Paper Size : 45cm×45cm

Height: 17cm

**僕** がこの鳥を知ったのは、今年の7月頃、第16回折紙探偵団コンベンションに展示するための作品を創作しようと、図鑑をめくっていたときのことでした。

そのかっこよさに驚き、早速試作を作ろうとしましたが、何も考えずに折るだけでは破綻するのが目に見えていたので、折り始める前にいくつか制約を設けました。

1つ目は、この鳥の特徴と言える頭の冠羽を、ミウラ折りの技法を使って表現することです。鳥類の羽にミウラ折りを組み込むというアイデアは、前川淳さん

の孔雀や、神谷哲史さんのコトドリを参考にしました。

2つ目は、僕は蛇腹をうまく使いこなせないので、22.5度の倍数角でまとめることです。これは、展開図を見ていただければ分かる通り、ほとんどの部分で達成できたと思います。

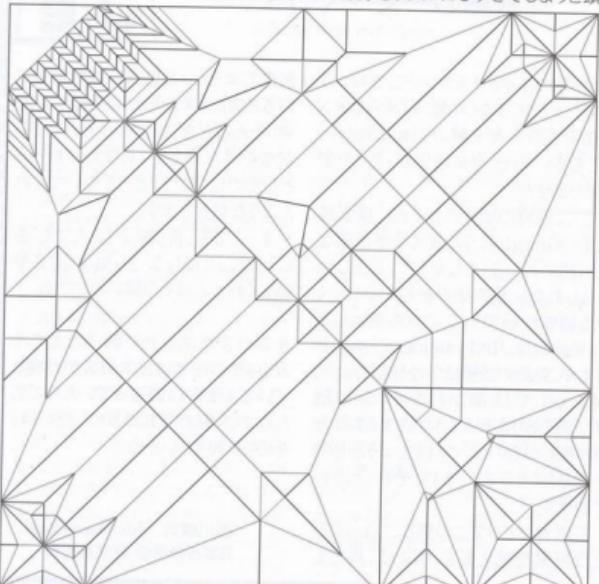
3つ目は、制約とはちょっと違う気もしますが、仕上げの際、なるべく本物に近づけようとするのではなく、折り紙らしいデザインにすることです。これは、冠羽をミウラ折りにすることが決まったので、体の部分をリアルにしきてしまふと頭部



との調和が取りにくくなると考えたからです。

さて、折り上がった作品は果たして折り紙らしくなっているのか、全体の調和は取れているのかというと、僕にはよく分かりません。そもそも「折り紙らしさ」とはどういうもののか分かっていない僕には答えられない質問なので、そういう話は大人の作家様に任せておき、未熟な僕は展開図の解説に入りたいと思います。

まず、左下半分の線で折りたたんでから、右上半分に変えていく方法が折りやすいと思います。カドの使い方ですが、ミウラ折りの根本から出ているカドは、頭部のボリュームを出すために使うので、うまく処理してください。そして、展開図の左下から右上に移行するときに、潰して2つになる3つの内部カドがありますが、この作業で出来た領域は首になります。そして、その2つのカドのうち、紙の中心にあたるカドとその1つ下にあるカドは、胸の毛になります。ミウラ折り部分の両脇はそのままだと幅があるので、あらかじめ折り込んでおくことをお勧めします。あとはそんなに分かりにくい使い方をしている部分はないと思いますので、各々頑張ってもらいたいと思います。折る順序としては、大体の折り筋を付けてから、背骨と平行に走る、羽を折り出すための仕込みの線から折り始めていくのがいいと思います。



File-41

## ジェイソン・クー

Jason Ku

ジェイソン・クー(Jason Ku)=1986年生まれ。現在、MIT(マサチューセッツ工科大学)で大学院生として機械工学を学んでいる。折り紙以外の趣味は歌、ロッククライミング、チェス。

ウェブサイト=<http://scripts.mit.edu/~jasonku/>



### ■何時、どのように折り紙を始めましたか？

小さな時に、母から「ジャーマン・ペル」という作品を教わりました。これが最初に折った作品だと思います。そして、1年生か2年生くらいのころ、ジョン・モントロールさんの本を買ってもらいました。これが“本当の”折り紙の本との出会いで、載っている作品は全部、何度も折りました。

その後、アトランタの折り紙グループ「Atlanta Regional Folders」の集まりに参加、そこでOrigamiUSAの事を知り、ニューヨークのコンベンションなどにも参加するようになりました。

### ■創作を始めたきっかけは？

高校生くらいの頃から、創作を始めました。本に載っている作品は大抵れるようになります(たとえば『空想おりがみ』のステゴサウルスを、15cmで折ったりしました)、ただ折るだけでは物足りなくなつて、創作に挑戦し始めました。最初はとても難しく、とにかく練習が必要でした。初期の作品の多くは、ツルの基本形や簡単な22.5度系の作品が多かったのですが、残念ながらそれらは前川淳さんや小松英夫さんの作品ほど面白い物ではありませんでした。

その後、基本的なボックスブリーツを使って、複雑な形の作品を作るよう

になりました。

また、ウェブ上で公開されている色々な人の作品や展開図を解析して、幅の違うヒダの接合や、他の角度との組み合わせなどを使えるようになりました。展開図をただ折り疊むだけでなく、円領域や帯などを描き込んで完成形を予想、解析することによって、たくさんの事を学べたと思います。

### ■創作において、気をつけている事などありますか？

平面的ではなく、いろいろな方向から見ることができるように立体的に仕上げたいと考えています。

また、なかに新しい方法を見ついたら、必要になった時に自在に使いこなすことができるよう、よく理解しておくようにしています。他の創作家もそうだと思いますが、たくさんの方法を知っていれば、最も良い方法を使うことができるからです。

### ■OrigaMIT(マサチューセッツ工科大学の折り紙クラブ)について教えてください

ここ4-5年、OrigaMITの代表を務めています。毎週のミーティングでは、いろいろなテーマでレクチャーをしてたり、作品を教えています。OrigaMITは、アメリカの大学の折り紙クラブのなかでは最も大きいグループだと思いますが、私たちはOrigaMITをより大きなグループにして、多くのよい折り手を育てたいと考えています。そのために、MITから紙や本などを購入するための資金を得る手続きをしたり、マイケル・ラフォースさんやロバート・ラングさんなど

の作家を呼んでワークショップを行っています。また、残念ながらまだ軌道にのっていませんが、年に一度創作コンテストを行っています。

### ■今、取り組んでいる題材などありますか？

ブライアン・チャンのように、常に折りたいものがあればいいのですが、自分にとって題材選びはいつも難しい問題です。

最近は、無機的な題材に取り組んでいます。昨年、自転車を創りましたが、それ以外の題材も折りたいと考えています。また、小松英夫さんの作品のような、一値分子をなるべく使わないう設計にも挑戦しています。一値分子を使った設計は、樹状図的な形は上手く折り出す事ができますが、実際の物の形は樹状図だけではありません。もうすこし理解ができたら、いくつか動物などを創るつもりです。

### ■今後の活動について教えてください

創作だけでなく、折り紙の数学についても取り組みたいと考えています。幸いMITに所属しているので、エリック・ドメインさんに相談する事ができます。また、折り図など創作以外の事にも時間をとどうと考えています。新作を考える時間が減ってしまうのが残念ですが。



SOSMEの懇親会では、ロバート・ラング氏などを巻き込んで合唱を披露した



▲チョウ



▲ヘラジカ



Rabbit Ear

# つまみおり

information



## ◆スペインAEPコンベンションinセビーリャ —初めてのスペイン— 川崎敏和

スペインの折紙協会の宮本幹子さんから日本人をコンベンションのスペシャルゲストとして招待したいとメールがあった。そこで、スペイン料理に凝っている川崎敏和氏を推薦したところ、川崎氏らしいレポートが届いた。

山口さんの勧めでスペインコンベンション(9/9~9/12)に参加した。アフリカに近いスペイン南西部のセビーリャ(Sevilla)に入るには、フランクフルトとバルセロナを経由しなければならなかつた。日本人参加者は私一人。スペインは遠い異国と思った。

開会式もなく教室が始まった。インフォメーションはスペイン語。講習作品名と思っていた単語が難易度を表すことを知ったのは最終日だった。

3日目の昼食がセレブションとは知らずに外出してしまった。3時間後ホテルに戻ると誰もいなかった。食堂は空っぽ、腹やかな声を聞きつけて、そっと覗くと寝たけなわ、1時間遅れで食事にありついた。「カワサキはどこだ!」と大騒ぎだったらしい。その間、観光のために数キロ離れたセビーリャ市街を目指して歩い

ていた。もし自動車専用道路に迷い込んで前進不能となってしまったら。もしランチで入ったBig Barger に長蛇の列ができていなければ…。単独行動にはご用心!

会場のホテルは4ツ星だけあって、3つの講習室は天井が高く広かった。2時間単位の教室は10時開始で午前午後2回ずつ、20時終了だった。1分ローズの講習では、もう一人のゲストで唯一の通訳者のジョセフ・ウーさんに助けを仰いだ。ウーさんのカエル(写真:左)とゾウの講習を受けた。私はウーさんのファンなのだ。展示作品で目立っていたのは受け付けに立っていた戦隊もの。こういうのが好きな若者がいるのだなあと思っていたら、大会会長のイシドロ(Isidro)さんの作品だった(写真:右)。折り図集の表紙、Tシャツの図柄、記念品も戦隊ものだった。大型水槽を利用した海洋生物の展示や会長シルゴ(Sirgo)さんの昆虫標本も目立っていたが、ウーさんの作品が一番よかった。探偵団コンベンションに招きたいものだ。ウーさん応募してね!

夜の自由時間は特に楽しかった。松明灯るテラスで歓談し、バラを片手に可愛いバーテンダーとテーブルの間を行きました。注文したマルガリータではなく、カイピリーニャを作ってくれた。22年前、前



大会会長のイシドロさんと自慢の戦隊もの

川さんと旅したブラジルで毎日飲んだカクテルだ。不思議なことにオレーと叫びフラメンコを踊りだす人はいなかった。スペインの人はおとなしくて真面目だった。100人規模(写真:上)、2時間の昼休み、ナイトツアー、夜の特設バー。よく準備された居心地のよい大会だった。スタッフのみなさん、旅の準備とサラエボでお世話になった宮本幹子ご夫妻ありがとうございました。

追記 帰りの便が大幅に遅れて乗り継ぎに失敗した。案内が不親切で、日本人乗客の多くは集団で迷子になっていた。私は単独行動。交渉して得た食事券で寿司を食った。英語ができないても何とかなるという良くなき認識を深めてしまった。



ウーさんのカエル

## ◆関西コンベンションの中止と当面の関西友の会の運営について

非常に残念なことはございますが、2011年の関西コンベンションを中止いたしますとともに、関西友の会の運営体制を当面下記要領で進めさせていただきますことをお知らせいたします。

### <今後の関西友の会の体制>

a.立石は代表を降り、代表無しの10人のスタッフで運営する。

森下、供田、中村、菅原、芳岡、坪、黒川、小森、櫻木、立石

b.2011年度の関西コンベンションは中止する。

c.少なくとも1年間の間、例会は3ヶ月に1回の現在の体制を維持する。

d.各例会の担当は、

2月 菅原、6月 黒川・森下、9月 坪

12月 立石

とし、例会の広報などには担当者の名前を明示する。具体的なお知らせは、本誌、ウェブサイトで適宜告知する。現在、ご登録いただいている友の会の皆さまにはハガキなどで別途ご連絡いたします。

### <関西コンベンション中止の理由>

立石が代表を降り、神戸女学院大学を取る事が困難になり、また他のスタッフも、5ヶ月前に場所を確保する事は難しかったため。

### <立石が代表を降りる理由>

特定の個人から立石に対する誹謗中傷の手紙、メール等が明示的な形で発覚

し、健全な形でコンベンションのようなイベントを運営することが困難であるので、「関西=立石」という矮小化し歪んだ抗議、物言いを当面回避するため。

なお、日本折紙学会といたしましては、今般の誹謗中傷は全く承服できないものであると認識いたしており、立石には引き続き評議員としての立場で日本折紙学会の運営の一翼を担っていただきたいと考えております。今般の措置は、非常に残念ではございますが、当面の危険回避の方法として、関西でのコンベンションを楽しみにしていただいている皆さまには何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

## ◆第9回折り紙の科学・数学・教育研究集会

立石浩一氏を議長とした「第6回折り紙の科学・数学・教育国際会議」の日本での開催が決まりましたが、第4回のカリヨンニアでの同会議から刺激を受けはじまつた本研究集会も、2006年の12月に第1回を開催してから、9回目を数えることになりました。これまでの発表は、数学、計算機科学、工学、歴史、教育現場での利用など、多彩な内容になっています。今回も、どのような研究が発表されるのか、期待してください。

日程:12月19日(日)10:30から16:00まで  
(昼食は各自)

場所:JOASホール(東京都文京区白山1-33-8 朝日マンション2F)

参加資格:なし

参加費:1000円

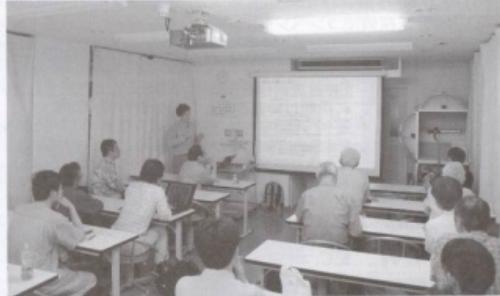
主催:日本折紙学会

詳細:<http://www.origami.gr.jp/OSME/1012.html>

特別な資格(会員であるなど)は必要ありません。発表をご希望するかたは、12月6日までに、電子メールにて、下記項目をご連絡ください。郵送でも受け付けますが、できるかぎり電子メールでお願いします。応募が多数の場合などには、時間の調整をしていただくこともありますので、ご了承ください。

○発表者応募要項

○メールの表題:第9回OSME研究集会



発表希望

◇内容:氏名、連絡先、発表タイトル、発表概要(200文字まで)、発表予定期間(30分以下としますが、交渉に応じます)

◇連絡先:webman@origami.gr.jp

担当:前川淳

## 第1回折紙探偵団九州コンベンション企画案浮上

関西コンベンションが中止になったことで、折紙探偵団九州友の会が第1回折紙探偵団九州コンベンションを開催する企画案が浮上した。

もともと、折紙探偵団九州友の会ができるきっかけは、折紙探偵団九州コンベンションの開催を視野に入れてのことであり、2008年から活動してきている。

今回、来年の関西コンベンション中止を受け、関西コンベンションと同じ時

期(ゴールデンウイーク)に佐賀で開催するプランが考えられている。現在のところはただアイデアだけで、何も決まっていないが、大いに価値のあることだと思う。

ゴールデンウイークの時期には有田焼の陶器市などもあって観光も楽しめるコンベンションになりそうだ。また、九州は韓国も近く釜山からの参加者も関心を寄せるだろう。

詳細は次号でお知らせします。



# ◆第17回 折紙探偵団コンベンション折り図集折り図募集

夏のコンベンションに合わせて発行される、世界中の折り紙愛好家が楽しみにしている折り図集、『折紙探偵団コンベンション折り図集』の折り図の募集を開始します。

年を追うごとに投稿作品数が多くなり、特にここ数年は海外からの投稿が多く、競争率が高くなっています。

締め切りは来年の6月ですが、折り図を描くのは時間がかかります。オリジナルの高い作品・折り図を仕上げるには、今から準備を始めても早すぎるということはありません。あなたの自信作をお待ちしています。

原稿の規定については「折り図集投稿マニュアル」をウェブサイトで配布していますのでご覧ください。

<http://origami.gr.jp/>

●応募資格 特になし。アマ・プロ、年齢不問。本誌読者及び日本折紙学会会員である必要なし。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第17回折紙探偵団コンベンション折

り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、自作の折り図に限る。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの創作者の了解を取った上で、名前も明記すること)原稿はデジタルデータが基本となります。手描きの場合は状況(編集作業工程の問題)によってとなります。

## ◆The 17th Origami Tanteidan Convention Book: Call for Diagrams

We are accepting diagrams for Origami Tanteidan Convention Book volume 17.

The deadline is in June, so please prepare diagrams as early as possible.

The selected models will be published in this book. The format of

ども添えて、今までお送りください。

締め切り: 12月28日

応募先住所: 113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216 おりがみはうす宛

メールアドレス: [info@origamihouse.jp](mailto:info@origamihouse.jp)

前回『本格折り紙』2/前川淳/著(日貿出版社刊)の当選者は次の通りです。

『本格折り紙』2/前川淳/著(日貿出版社刊)

鈴木理沙(埼玉県)、清水直治(東京都)、素敏江(千葉県)(敬称略)以上3名の方です。

下は100円) / 時間: 13:00~16:30

●12月18日(土) / 講師: 村木厚紀 / 作品: うさぎ / 講師: 加藤美津枝 / 作品: 薭部式ユニットによる作品

## 関西友の会※折り紙は各自持参

会場=神戸女学院L-34教室(文学館2階) / 参加費=500円 / 時間=10:00~18:00

●12月18日(土) / 講師: 立石浩一 / 作品: 胸像、ラット、ドワーフ(作・エリック・ジョワゼル)

## 九州友の会※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階第3研修室B / 参加費=500円(中学生以下は100円) / 時間=13:00~16:00

●12月18日(土) / 講師: 川村みゆき / 作品: ユニット(予定)

●2011年1月23日(日) / 講師: 浜田 勇 / 作品: うさぎ(予定)

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室 / 参加費=大人200円(中学生以



## 東京友の会※折り紙は各自持参

会場=JOASホール / 参加費=大人500円(中学生以下300円) / 講習会=14:00~16:00 / 研究会=16:00

●12月4日(土) / 講師: 室屋洋輔 / 作品: ゴリラ

●2011年1月8日(土) / 講師: 未定 / 作品: 未定

## 静岡友の会※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F / 参加費=大人500円(中学生以下は200円) / 講習=10:30~12:00 / 講習・情報交換=13:00~14:30

●12月5日(日) / 講師: 辻 和之 / 作品: うさぎ

## 東海友の会※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンバスA棟303号室 / 参加費=大人200円(中学生以

■ORIGAMITANTEIDAN / No.124 / Published on 25, November 2010 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakucho Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo : "Cat" Produced by Katsuta Kyohi / Photographed by Kamiya Satoshi / Publisher : Nishikawa Seiji / Editor in Chief : Yamaguchi Makoto / Editor : Kamiya Satoshi, Katsuta Kyohi / Editorial Design : ORIGAMI HOUSE / Translator : Tateishi Koichi

diagrams is available from our web site. They can be computer-generated or handwritten.

As for the regulations on application, please have a look at our style sheet in the JOAS web site (<http://origami.gr.jp/>).

## JOASホール今後の予定

### ◆「知子の部屋」

12月18日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30~16:00  
アットホームな雰囲気の教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

### ◆「ある折り紙作家の教室」

12月26日(日)・1月16日(日) / 講師=神谷哲史 / 参加費=3,000円 / 11:00~16:00 / 講習作品=ヘラクレスオカバト(予定)

■ 参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。

### ■お詫びと訂正

前号123号クローズアップ11ページにおきまして、会場名に誤りがありましたので訂正させて頂きます。

誤「フィレンツェ大学」→正「フェラーラ市のロドヴィコ アリオストの館(Casa di Lodovico Ariosto)」

### 編集後記

■このところ海外出張が続いている。■9月10日はすごかった。■1ヵ月以上の旅が続いた。■どこまで続くのか、12月1日からはジョワゼル本を持って家族を訪ねる。■葬儀の時にお会いした、ご兄弟はジョワゼルに良く似た方だった。■そのときお見せしたグラを見て、買わせてほしいと言っていた。■私はジョワゼルの代わりにもらってほしいとそのときは伝えていた。■喜んでもらえた嬉しい。■日立製作所のPR誌の依頼で、日立製作所の双腕型のクレーンをモデルに作品を作成してほしいと依頼があった。■そこで、小松英夫さんに頼んだ。■日立製作所のクレーンは小松製作所が作っている。■知ってる?(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

## 折紙探偵団

2010年11月25日発行 第21巻4号 通巻124号  
発行所 / 日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人 / 西川誠司

編集人 / 山口 真

編集スタッフ / 神谷哲史、勝田恭平

デザイン / おりがみはうす

翻訳 / 立石浩一

発売元 / おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

## おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>E-mail = [info@origamihouse.jp](mailto:info@origamihouse.jp)このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。  
日本折紙学会とは別になります。ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.  
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.エリック・ジョワゼル  
一折り紙のマジシャン

山口 真 編著 / 立石浩一 訳

B5判ハードカバー

全144頁 / カラー80頁

価格 4,800円 / 送料 420円

10月に逝去された、フランスの折り紙作家エリック・ジョワゼル氏の作品写真集。120点を超える作品写真を始め、今まで語られなかった制作秘話なども掲載。

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円		B5判 / 全228頁 / カラー10頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判 / 全196頁 / カラー10頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畠文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判 / 全196頁 / カラー10頁 / 17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判 / 全196頁 / カラー10頁 / 4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円	1冊	B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畠文昭 著	2,900円	420円 (梱包込) *	B5判 / 全180頁 / カラー10頁 / 4頁 / 18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まつた秀作 47作品を収録
第15回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.15 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まつた秀作 56作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まつた秀作 55作品を収録
第10回記念折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まつた秀作 50作品を収録

※第1回～第9回及び第12回～第14回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

商品名	送料	内 容
折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L, 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手 ※数に限りがありますので、ご注文の際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律	35×35cm / 10枚入 / 70kg の洋紙に縦かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)	1～2セット 440円	恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図
「折紙探偵団」 専用ファイル 750円(税込)	1冊250円 2冊350円 3冊470円	変形B5判 / 箔押し(緑)ロゴ入り 雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊) と共に、会特別配布物が収納可能!

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送) 送料には梱包材代が含まれています

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません

ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください



## ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: [info@origamihouse.jp](mailto:info@origamihouse.jp)

月~金 12時~15時 土日 10時~16時

## 折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!

(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。

<http://origamihouse.store-web.net/>

※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

## ORIGAMI Tシャツ



2,300円(税込)

送料:2着まで500円

左胸位置に[折紙・折鶴]のロゴが入ったTシャツ。  
背面上には大きく[ORIGAMI]などの文字  
が入っています。色は黒のみで布は厚手です。S、  
M、L、XL各サイズあります。

## 書籍の送料

書籍1冊の送料は420円

書籍2冊の送料は530円

上記以外の場合はお問い合わせください 書籍と紙製品は別途発送となります

## 商品の申し込み方法

宛名と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

## 加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

とってもおいしそー！

# ケキ屋さん

¥300  
(税抜き)

トーヨー とってもおいしそー！

# ケキ屋さん

## おりがみ

トングと  
ケニギボックス入りで  
本格お店風さんあそび



あきな ホールケーキ

トングと  
ケニギボックス入りで  
本格お店風さんあそび

ロールケーキ

トングと  
ケニギボックス入りで  
本格お店風さんあそび

マカロン

## おりがみ



**株式会社トーヨー**  
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

※右側は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。  
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。  
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161  
大阪支店／名古屋営業所／福岡出張所／札幌出張所